

特35

853

黑住教葬祭式
附錄

黑住教管長黑住宗篤閱

大教正五位森下景端訂正

權中教正位岡田忠編輯

附錄

黑住教空祭式

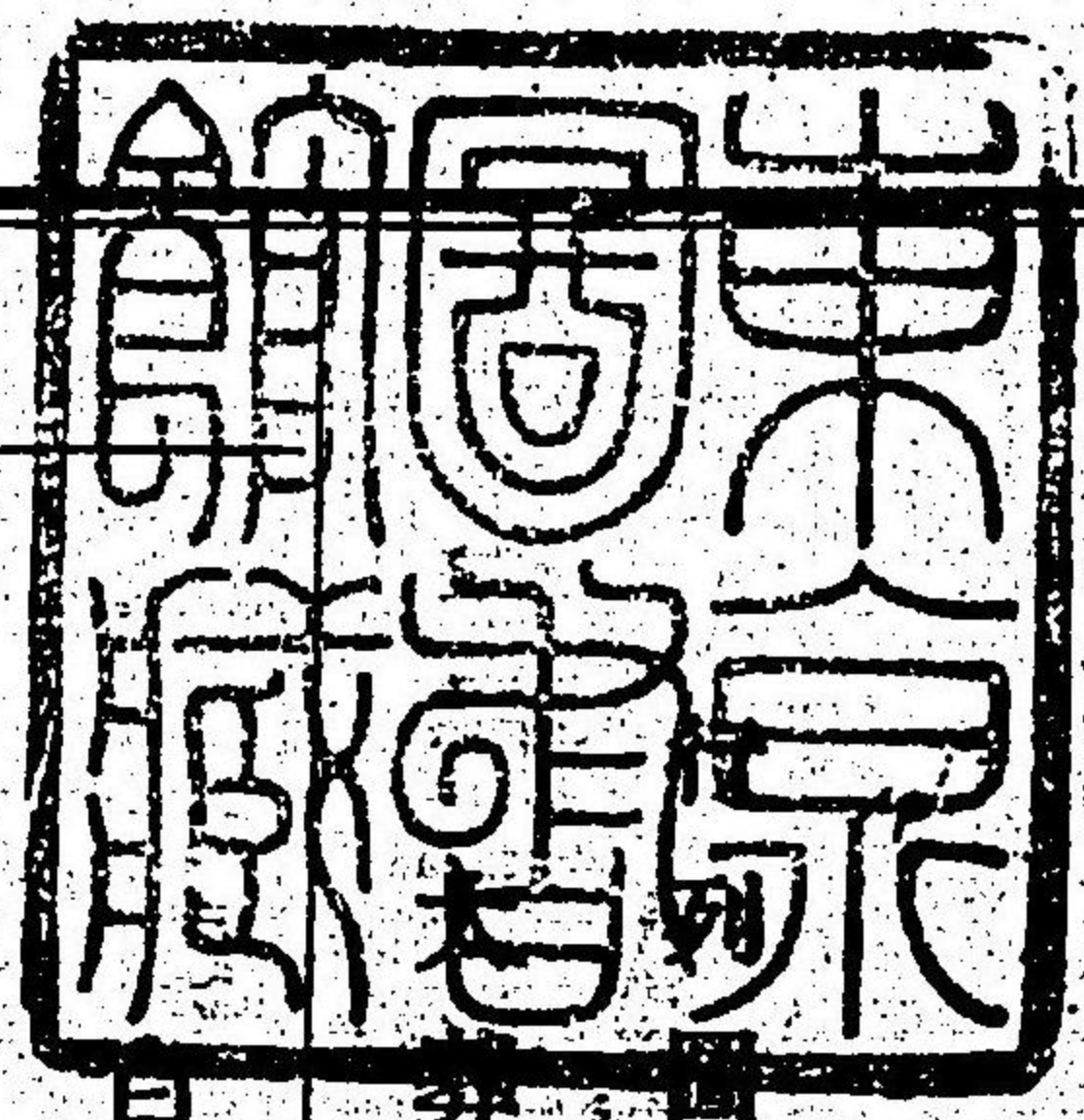
明治廿年十二月十日出版

本部藏

藏

W 2294/22

黒住教葬祭式附録



葬之部

白杖 一人丁

白杖 一人丁

秉炬 一人丁

篋 一人丁

白杖 一人丁

秉炬 一人丁

篋 一人丁



三 教師 馬又八車

盪水教師

大麻教師

大櫛 二白丁

馬 口付 二丁一人

白旗 一白丁

車夫 一人

長柄持 一白丁

前驅教師

沓取 一白丁

從者 一重垂 一人

敷皮持 二白丁

大櫛 二白丁

白旗 一白丁

四 桃茆教師 馬又八車

弓矢 雜色

教師

副典禮

馬 口付 二丁一人

車夫 一人

長柄持 一白丁

沓取 一白丁

教師

弓矢 雜色

赤旗 一白丁

馬 口付 二丁一人

教師

車夫 一人

長柄持 一白丁

供物辛櫃 四白丁

典禮

沓取 一白丁

教師

赤旗 一白丁

高案 一人丁

全 一人丁

樂人

六

高案 一人丁

玉串案 一人丁

樂人

樂人

樂人

白旗 一人丁

七

樂器 二人丁

樂人

樂人

白旗 一人丁

馬車 鞭者

騎馬 口付 二人

長柄持 一人丁

櫛 一人丁

副齋主

香取 一人丁

贊者

馬又八車

全上

馬又八車

從者 一人垂

敷皮持 一人丁

櫛 一人丁

白旗 一人丁

赤旗 一人丁

馬車 鞭者

騎馬 口付 二人

長柄持 一人丁

齋主

後取祝詞箱持

香取 一人丁

兼從者二人

敷皮持 一人丁

白旗 一人丁

赤旗 一人丁

九

花又ハ造花一人

花鳥又ハ造花鳥一人

全全一人

田

花又ハ造花一人

花鳥又ハ造花鳥一人

全全一人

真榊一人

隨人騎馬

田

銘旗一人

真榊一人

隨人騎馬

教師

教師

護喪

秉炬一人

喪護

全

全

田

太刀一直垂一人

柩昇夫一人數名

杖持一人

教師

教師

護喪

秉炬一人

喪護

全

全

蓋持一人

燈子一人

牽馬口付二人

墓標一人

燈子一人

田

奉幣一人 喪主

從者 禮服馬車 轎者

近親 全 全

從者 禮服 騎馬 口付自丁 二人

近親 全 全

近親女

從者 禮服馬車 轎者

馬 口付 自丁二人 長柄持 一人

喪婦

近親女

後驅教師 香取 一人

從者 禮服 駕籠 昇夫

近親女

從者 一直垂 敷皮持 一人

籠長持 二人

會葬人名

以上

以下列外

以下列外

此外夜は秉炬灯燈等を加へ其増減其時に應きべし、又行列外死者の官位職爵に依て兵隊の並列を加ふる事も有るべし其は該則もあれば其應分にまかすべければ、此處に略す、以上行列の本義とす以下之標準、

上葬之部

一

白杖 一白
八丁

秉炬 一白
八丁

篋 一白
八丁

白杖 一白
八丁

秉炬 一白
八丁

篋 一白
八丁

三

教師 車

鹽水 教師

大麻 教師

三

大神

白丁二人
臺付

前驅 教師

從者 一
直垂 八

香取 一
白丁 八

長柄持 一
白丁 八

車夫 一人

馬 白丁二人
口付

白旗 一白
八丁

白旗 一白
八丁

弓矢 一
直垂 八

教師

四

桃蒔 教師 車

弓矢 一
直垂 八

教師

五

馬 口付 二人

車夫 一人

長柄持 一人

香取 一人

供物辛櫃 四人

教師

高案 一人

教師

高案 一人

六

玉串案 一人

樂人

樂器 一人

樂人

柳 一人

樂人

柳 一人

七

白旗 一人

馬 口付 二人

車夫 一人

長柄持 一人

白旗 一人

副齋主

香取 一人

贊者車

全

從者 一人

敷皮持 一人

赤旗 一人

馬車 轡者

騎馬 口付 一人

長柄持 一人

花又造花 一人

花鳥又造花鳥 一人

八

齋主

香取 一人

後取祝詞箱持 兼從者 二人

敷皮持 一人

花又造花 一人

花鳥又造花鳥 一人

九

銘旗 一白人丁

奠楩 一白人丁

隨人 直垂車

奠楩 一白人丁

隨人 直垂車

護喪

秉炬 一白人丁

護喪

全

太刀 一直垂人

柩 數名
昇夫 白丁

杖持 一白人丁

香持 一白人丁

護喪

秉炬 一白人丁

護喪

全

童子 一白人丁

教師

全

三

童子 一白人丁

教師

全

墓標 一白人丁

奉幣 直垂一人

近親

近親

近親女

三

喪主

從者 禮服
從者 禮服

騎馬

二白口人丁付

車

一夫人

近親

近親

近親女

喪婦

從者 禮服
從者 禮服

車 夫人

近親女

騎馬 口付
二人丁

車 夫一人

後驅教師

從者 一直
一人

以下列外

長柄持 一人丁

香取 一人丁

籠長持 二人丁

會葬人名 以上

以下列外

右大葬上葬共ニ死者婦人あらば弓矢太刀を略きて
長刀を加ふべし長刀は行列太刀の處に入るべし持
手は白丁あり秉炬灯燈又兵隊等も大葬に準て其他
葬具の増減は適宜たるべし

中葬之部

白杖 一人丁

秉炬 一人丁

箒 一人丁

白杖 一人丁

秉炬 一人丁

箒 一人丁

教師 一車
一人夫

盥水教師

大麻 全上

白旗 一人丁

神 一人丁

赤旗 一人丁

三

白旗 一人丁

神 一人丁

赤旗 一人丁

騎馬 口付 一人丁

又 車 一人

四 齋主

贊者

仝 銘旗 一人丁

後取筆直垂 從者 一人

花 一人丁

秉炬 一人丁

護喪

五

太刀 直人垂

柩 白昇 丁夫 數名

花 一人丁

秉炬 一人丁

護喪

卷子 一人丁

六

墓標 一人丁

奉幣 一人

卷子 一人丁

近親

騎馬 口付 二人

喪主 又ハ 車夫 一人 近親

喪婦 車夫 一人

教師 車夫 一人

會葬人

近親

從者 一人

右は中葬行列順次の大槪あり喪家の都合よて花または鳥其他葬具適宜に従ひ墓所用具供物等は前に運び置くべし

下葬之部

秉炬 一人丁

白杖 一人丁

箒 一人丁

秉炬 一人丁

掃 一人丁

教師

搥水 一人

掃 一人丁

白旗 一人丁

三

齋主 車夫一人

銘旗 一人丁

赤旗 一人丁

從者兼
後取 一人

乘炬 一人丁

護喪

四

柩 白昇
數丁夫
名

贊者 一人

墓標 一人丁

乘炬 一人白丁

護喪

近親

五

奉幣 一人

喪主 直垂

會葬人名

以上

近親

右は下葬行列の大概なり喪家の都合にて中葬の葬具を加へ或は減するも其喪主の分限に應じ適宜たるべし又墓所用供其他供物等前以て送り置くも妨げなし

○祭具

靈璽

鏡劍玉を本義とす木主あらハ檜の木其外然

るべき材にて作り中にも鏡を最上とす劍玉

は圖中に略きて錄さ之に准へて造るべし

靈璽袋

錦綾綸子羽二重白絹麻晒裏も同品を用ゐる

を本義とす略すれば何よても表に相當の品

を用ゐべし

同衾褥

前も同じ

桶代

鏡劍玉等ハ靈主を納むる具なり

木主

檜の木よて造るを本義とす

但其外何の木よても妨げなし

杷

白絹又は麻晒よて製るべし

但地合は靈璽の袋よ從ひ喪家の都合よ

り何品を相用ゐても苦くからせ

積

積は木主の覆ひ筥なり

笏形

是も靈主ふれども略なり

劍形

全上

合祀形

全上

瓶子

一對

高案

高低大小分よ應して造るべし

玉串案

小机よして八足よ造るべし

燈臺

二脚を作るべし

三方

大小数々

高坏

喪家の都合により此品を用ゐるもあり用ゐ

かた三方に同じ

水器

死者に供ふる木椀あり

盃

全上御酒を供ふる器あり

花瓶

全上時花とさす器なり陶器略すれば筒竹に

ても妨げあり

靈屋

檜木よて造り靈屋を納む

水器

塩水を入るる器あり

大麻

祓式に用ゐる具あり

神

靈前に供ふる料なり五色絹又は紅白の絹又

略すれば紙の垂を着く

筒

大麻神懸玉串等を立る料なり

但本品の多少に依て調製すべし

垂

絹麻紙等にて製る

辛櫃

供物其外の祭品を納る

同帳

白絹又は麻木綿等にて調製すべし

○ 歛具

枕

品は靈屋の袋に准ふべし

衾褥 棺の中に詰る料なり地合は前に同じ
充袋 茶又叔糠杯を入れて製るべし地合は前に同
し

墓誌 但し紙袋にても苦しからせ
死者の姓名生死年月日履歴等を書いて棺の
上に置くものあり圖を見るべし

寝棺 柩を本義とす其外樟杉松等にて造るべし
但喪家の好みに任せ二重三重又は五重七
重に造る事もあるべし

坐棺 全上

槨 棺の外篋あり寝棺坐棺共に之あり
地合は靈匣の袋に准ふべし

吧 二脚材は便宜にすべし

登子 柩の上より覆ふ具あり

屋根 柩を乗する臺あり

大臺 下敷物なり

上敷 麻荒布木綿等を用ゐるべし

○葬具

桃苜 桃の枝よて作る凡三尺五寸位
乘炬 麻莖又は荻小竹等にて作るべし

簾

竹簾

白杖

杉にて作る

杖袋

地合は靈璽の袋に准ふべし

灯燈

白張但し臺付

花

季節の生花なり之るき時は造花を用ゐるも

妨げなし

鳥

是も生鳥を用ゐるを本義とす之るき時は造

鳥にてても妨げなし後圖を見て知るべし假令

ば梅より雉子若松に鬚籠杯あり時季に従ふべ

し

白木弓

二具

白羽矢

四本

眞神一對

五色絹に鏡劍玉を左右に着べし

太刀付袋又長刀

銘旗

光綾を合せて縫て両面に記すを上等とす又は

絹麻木綿等にて製るべし

赤白旗

大上中下葬に依て數を定め調製すべし

旗竿

銘旗又赤白旗の用とす

墓標

寸法大小用材は適宜たるべし

幣

奉幣の用あり

麻切麻 切麻は墳を清め又忌明清祓等を用ゐべし

玉串 數本

撞木杖 死者の爲なり

香 全

香臺 全

手桶 分に應じて數を定むべし

枚 全上

籠長持 總て葬所の用具を入れ運ぶ器あり

但數は分よ應じて作るべし

蓋 柩にさしおくためあり

鳥居 奥都城の前にたつ

燈籠 二基奥都城の左右またつ

右の品物は圖面よあげて示す

葉付竹 葬場並墓所の四方に立る料なり

注連繩 引き繞らす料なり

白幕 葬場よ張る料あり

薪 庭燎よ用ゐる料なり

○遺躰に着せしむる品

嬪衣 上葬以上は白綸子白綾白羽重夏からは白絹

白上布麻晒等なり、中葬は白羽重白絹、夏は麻

晒の類、下葬は白麻、白木綿、白金巾等あり、又禮服は死者現世官位職爵其分に應じ着せしむるを本義とす、略すれば喪家の好みに任すべし、女も此例に準じ、教師からは齋服、淨衣、直垂、格衣等各自等級に準じ、又常人からは、通常禮服、或は羽織袴にてもよし、尤喪家の都合により、禮服を略するも妨げあり、總て帯は着衣相當の品を用ゐべし、

烏帽子 教師の等級に應じて着せしむべし
簪 又中啓教師の等級に依りて持たしむべし

足袋

着服相當の品を用ゐべし

喪者の着服

白丁 烏帽子 是は昇夫口付其他葬具持の着用品なり
喪服は鼠色、黒色を用ゐるは言ふを俟せと雖とも官途の人は官位職爵に依りて大禮服、通常禮服、男女共に公の御規則に輕重あるべければ其より従ふべし、教師は上卷教師心得の六七兩條に記せるを以て此處に略す

供物

水

土器、陶器、硝子の類に盛るべし、

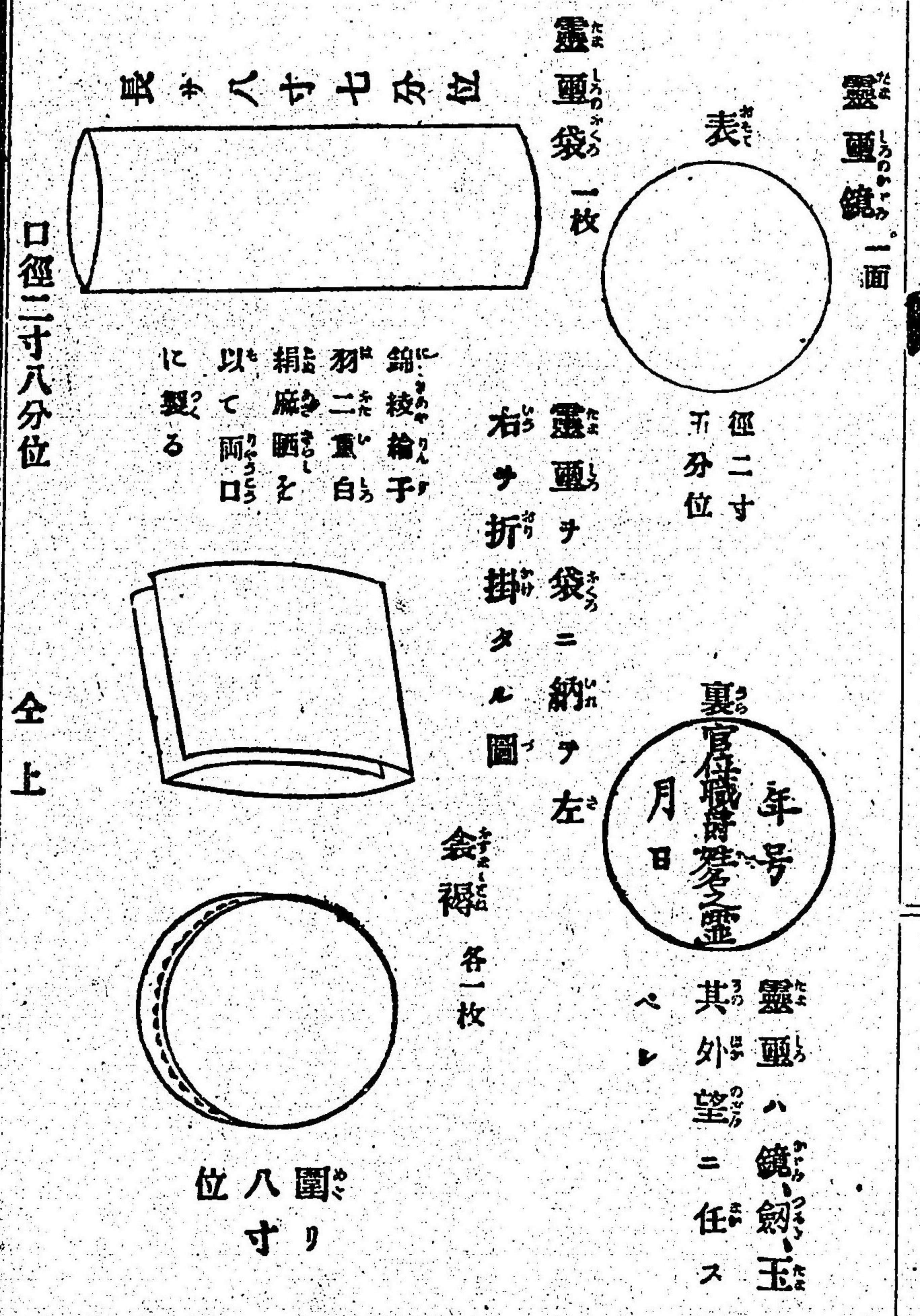
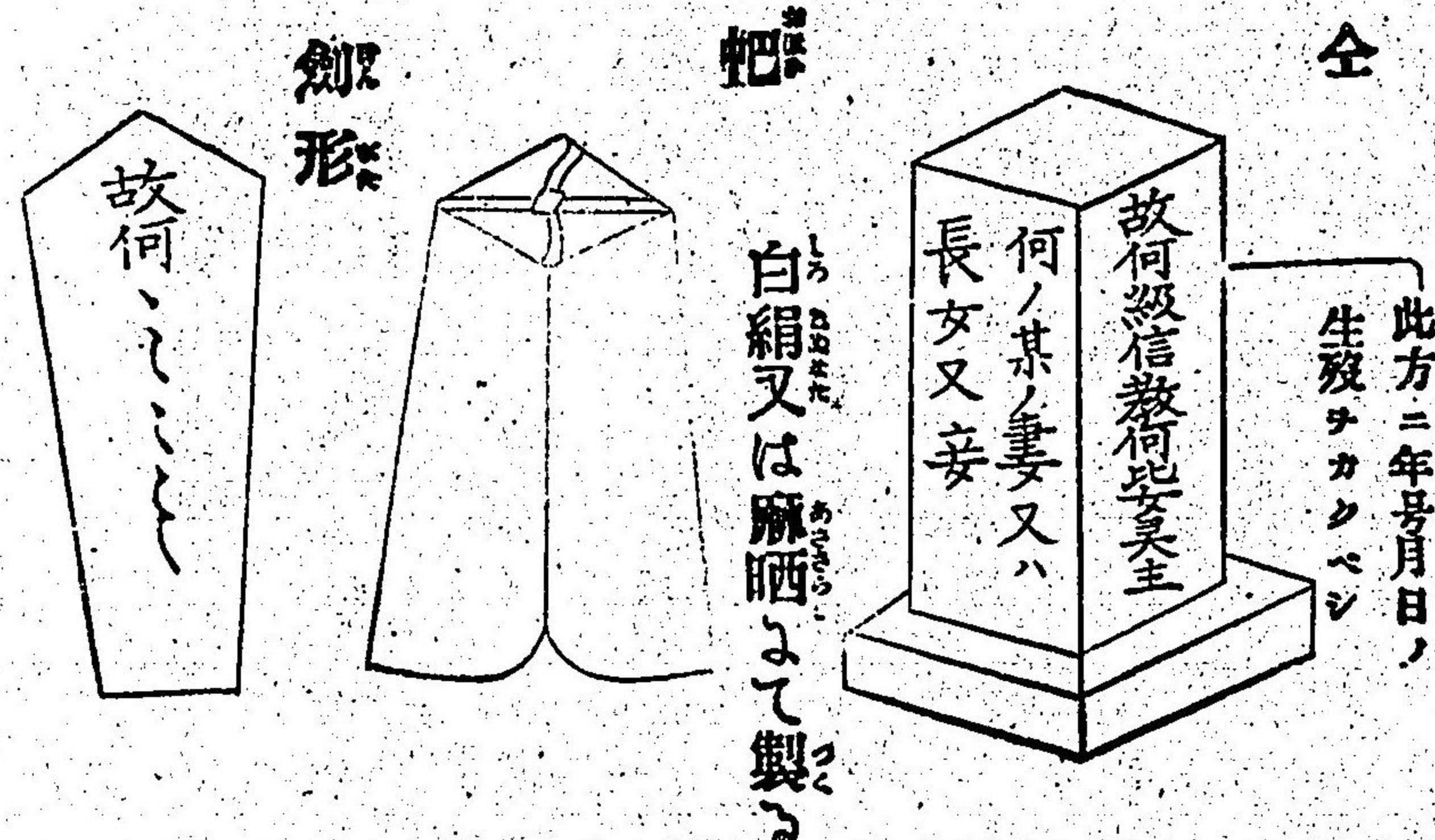
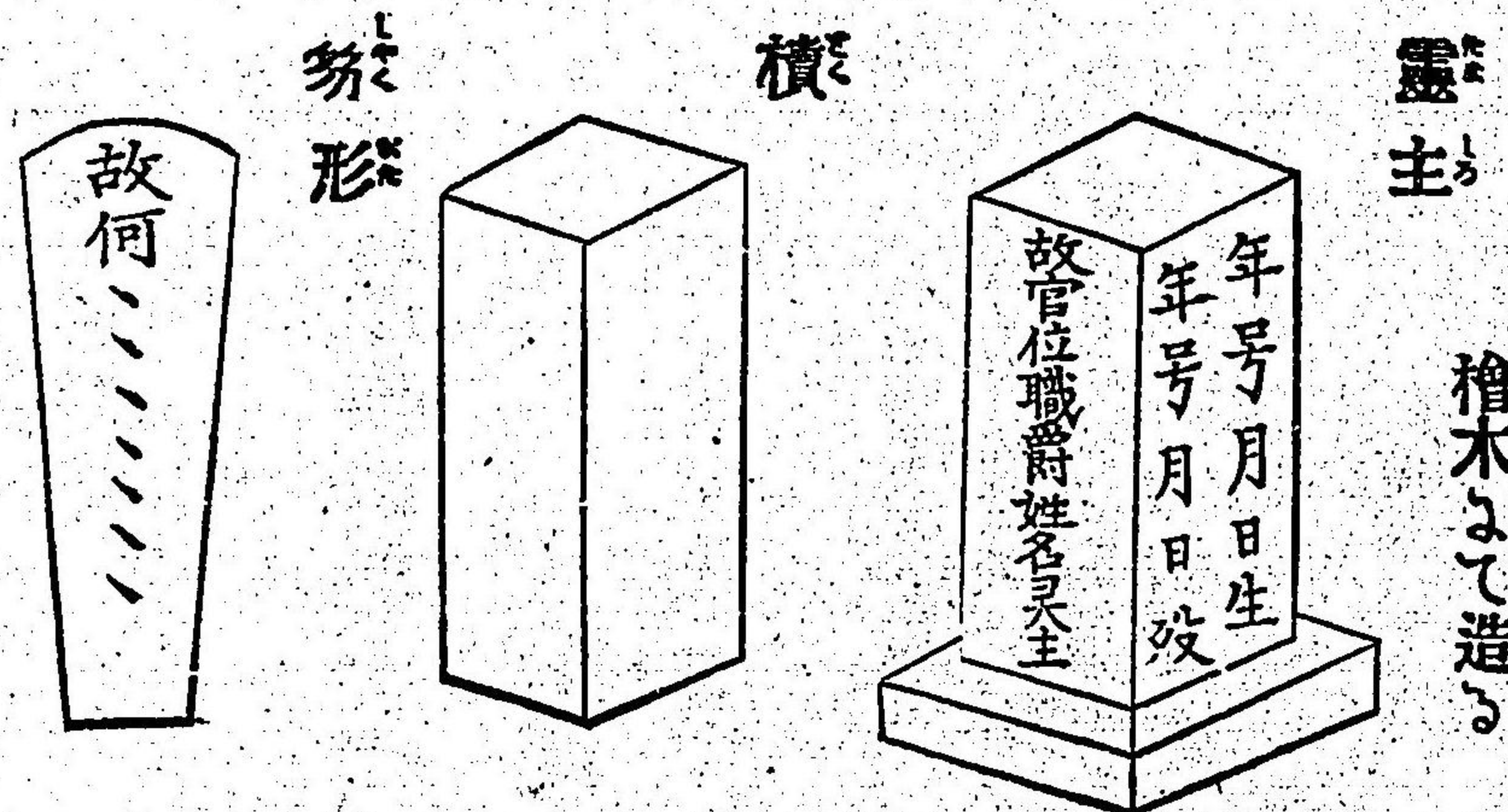
菓物	海物	聖物	山物	鳥	魚	飯	酒	盥
柿梨棘栗密柑金柑乳柑橙の類	松海苔若和布昆布の類	菜大根蕪胡蘿蔔牛蒡芋瓜茄子の類	山葵薯蕷蕨椎茸香蕈續茸の類	山禽野鳥に拘はらぎ是も新しきをよくとす	皿に据うべし 海川の魚大小に拘らざ新しきをよくとす平	土器に盛るべし	瓶子に入るべし	土器に盛るべし

乾魚	乾物	菓子	時花
干鯛小魚于海老瑣管の類	氷豆腐氷蕘蕘干心太干瓢湯皮の類	蒸菓子干菓子の類	梅桃櫻山吹花菖蒲萩百合菊其外何花にても

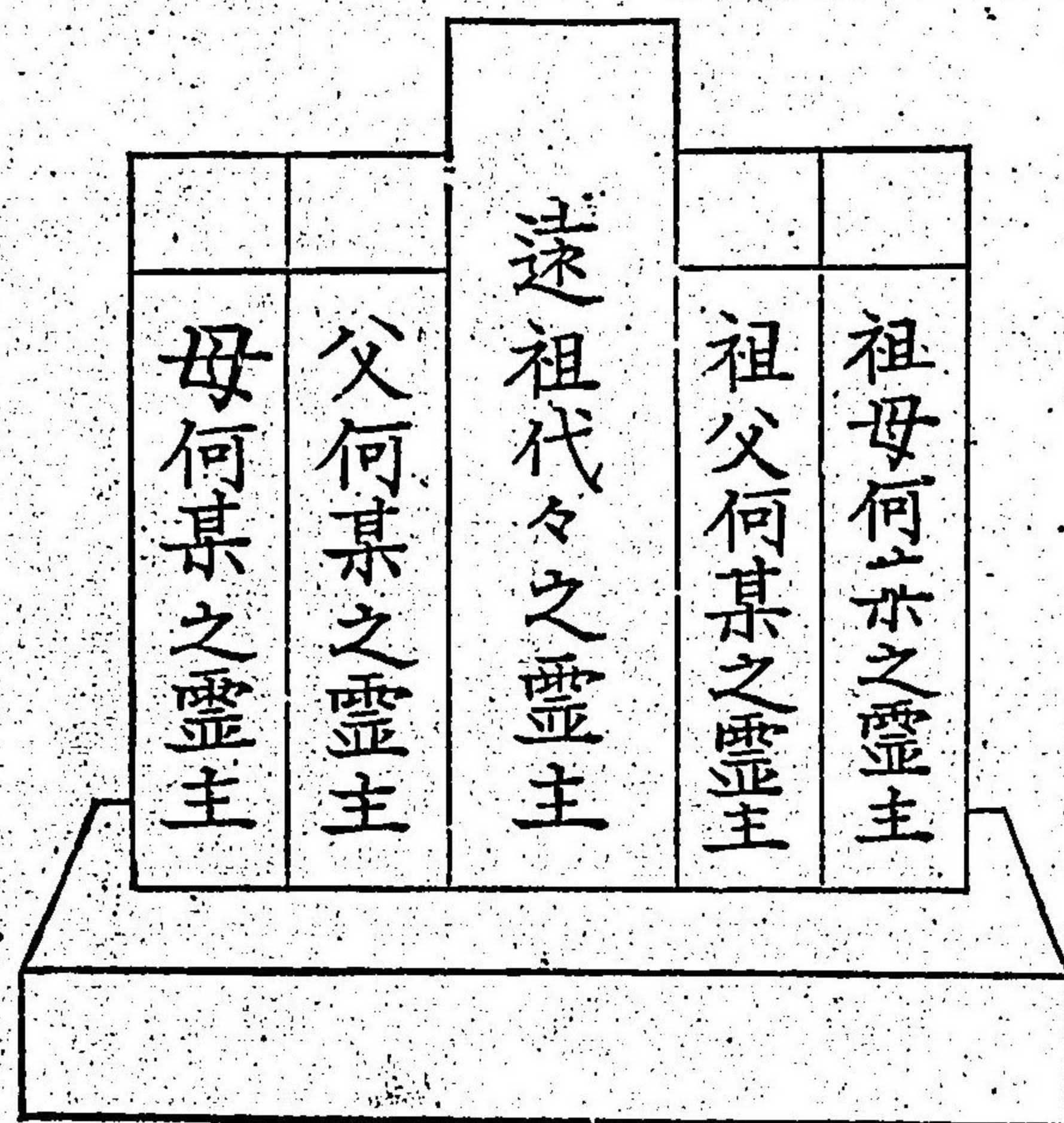
時々の花をたつべし

但その品物より紙又は柏三角柏其他時宜に従ひ何の木葉にても都合に任せ敷用あるも苦しむらき尤品より敷物を要せざるものもあり注意すべし

右にあげて記せる祭具歛具葬具着服また供物等の條々と左に繪おける各圖とを併せて参考すべし

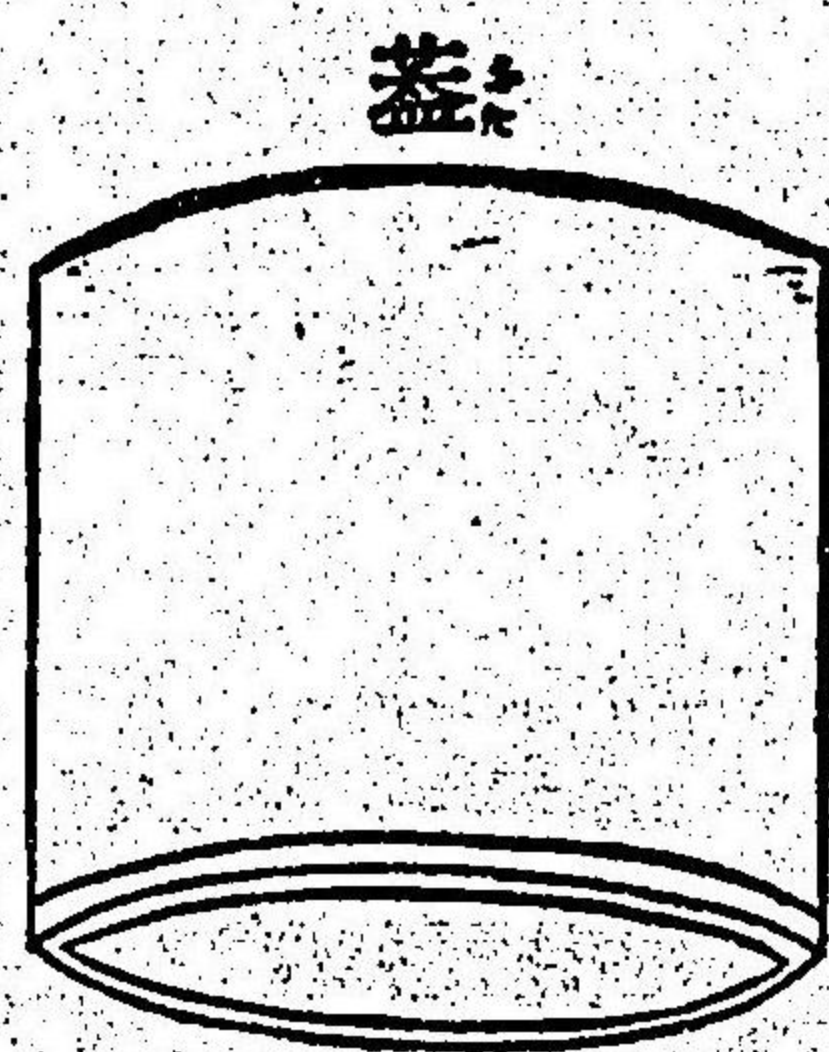


合祀ノ形



祖先と合祀するは横を
 取除け中乃其れ靈主を
 臺よと拔取て幾柱も一
 束ねよして祭る圖なり

桶代 一具



桶代は靈主
 の形に似て
 造るものな
 らば箱の類
 を用ゐるも
 可なり

吧 一枚

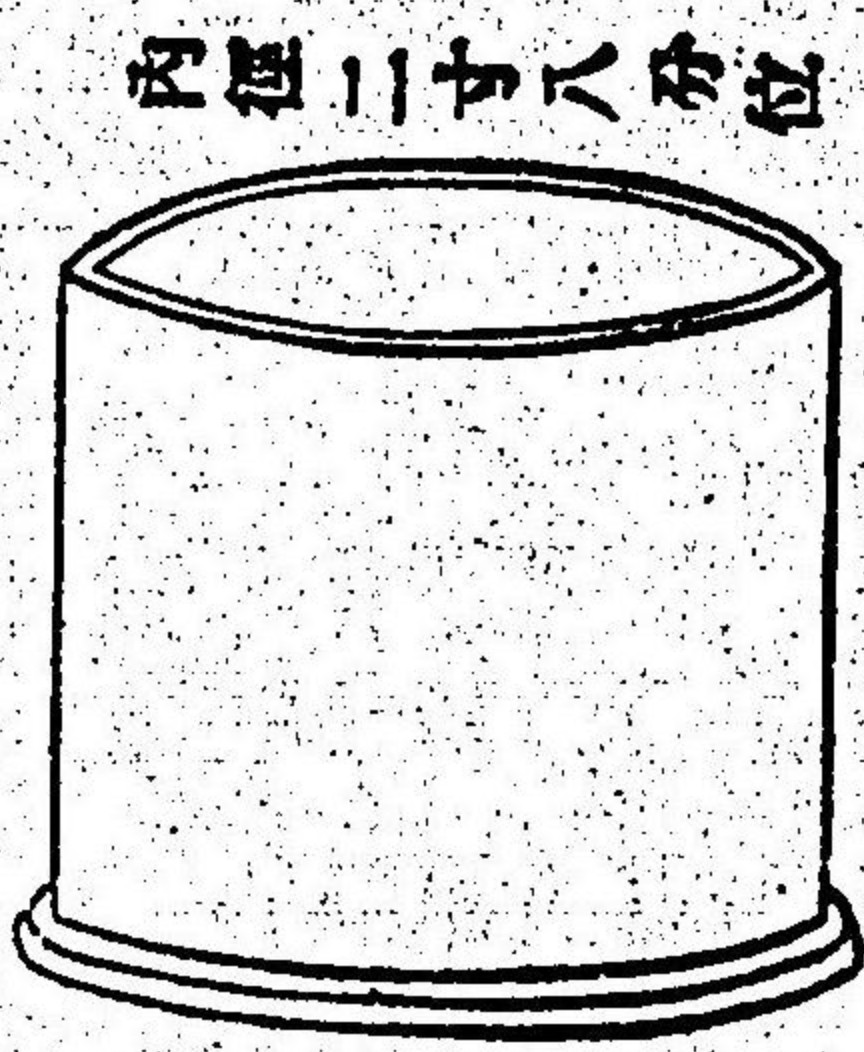


表ニ如此書シベシ

高キ二寸八分位

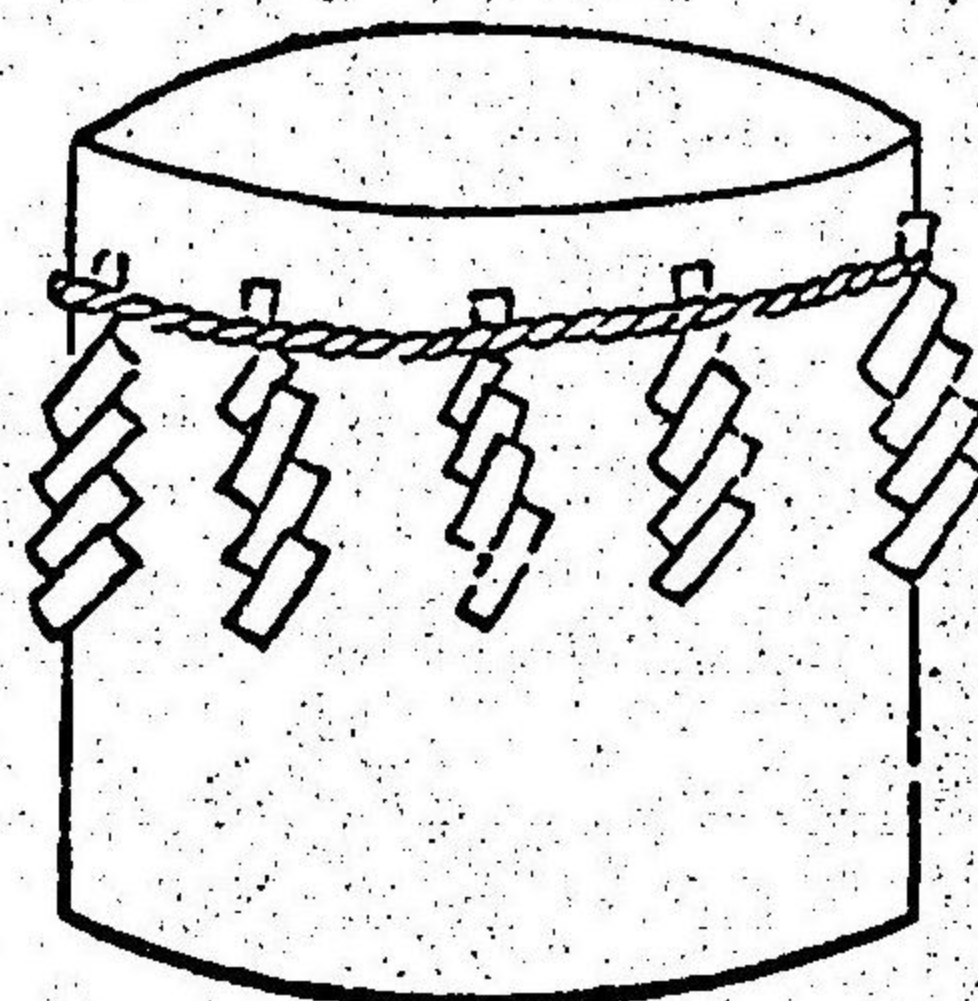
錦枝輪子羽
 二重白絹麻
 晒等に製

桶代に靈主



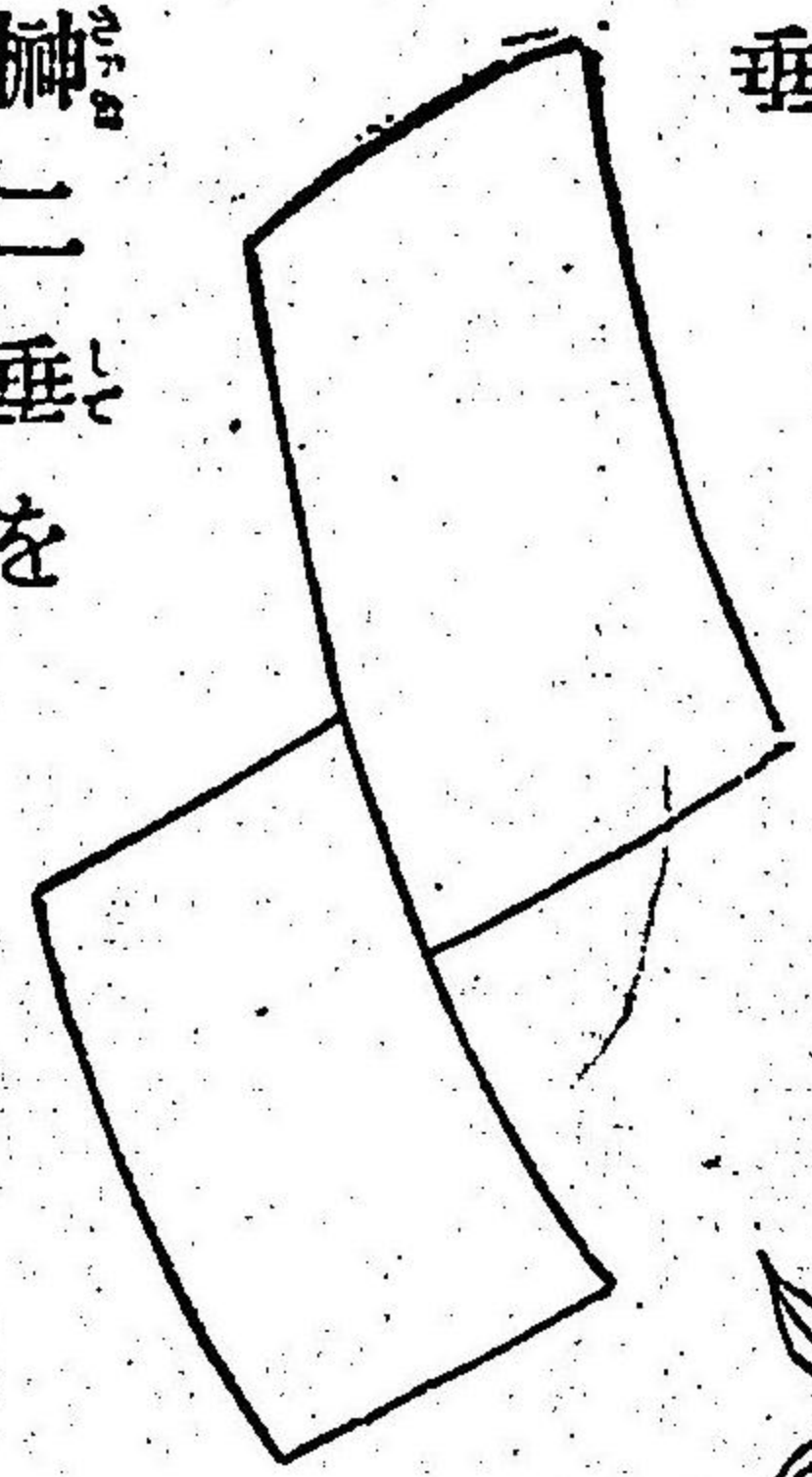
高キ二寸六分位

製櫓を曲て



連繩に注
 曳たる

立たる圖
著て筒に
櫛二垂を



垂

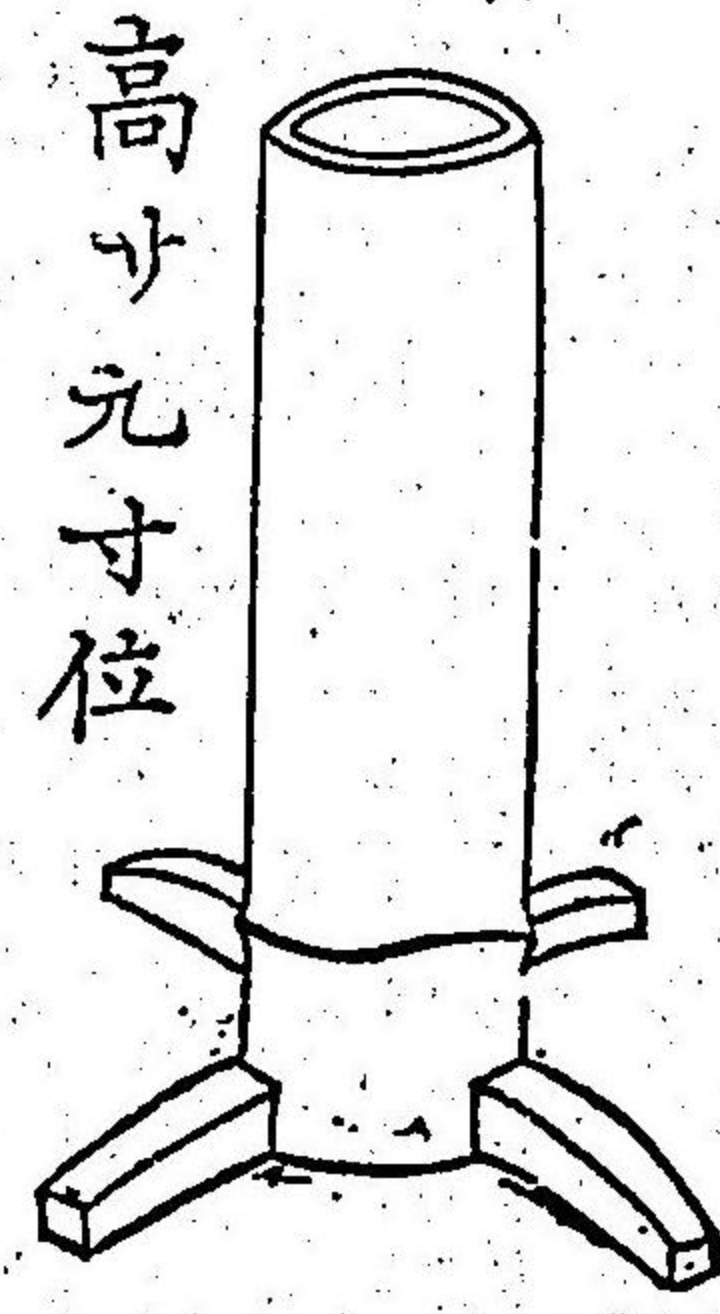
櫛三本

高サ三尺位

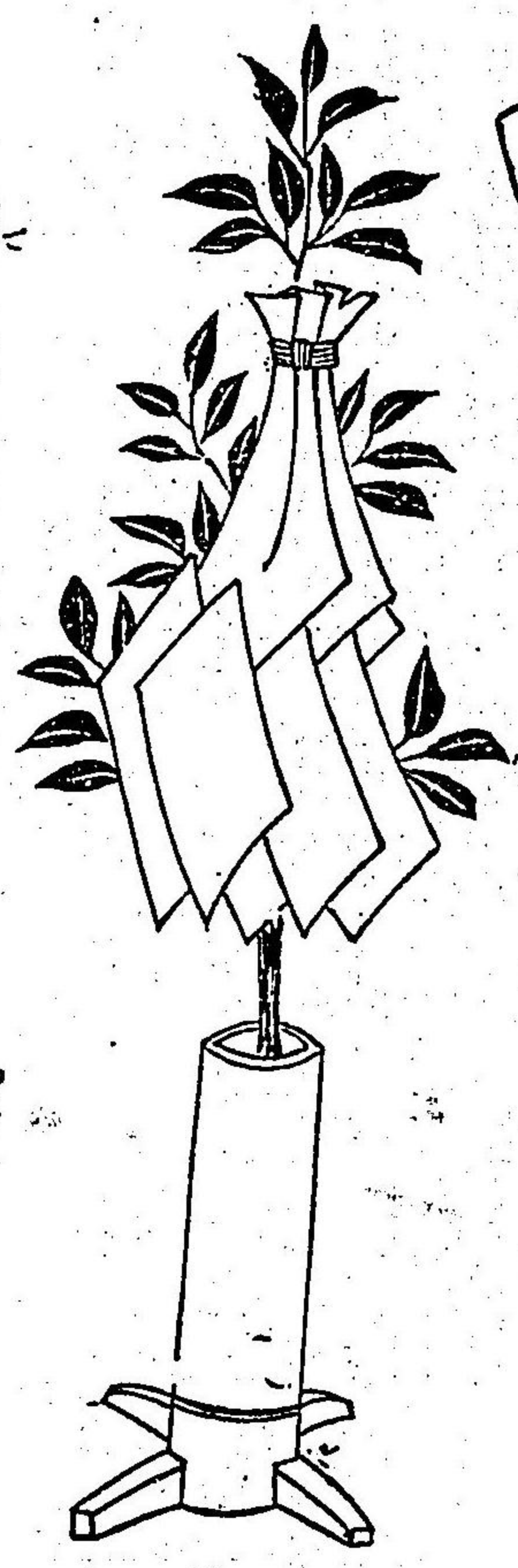


筒三具

二本ハ靈屋れ左右
に立る料
一本ハ瓊主乃玉串
料

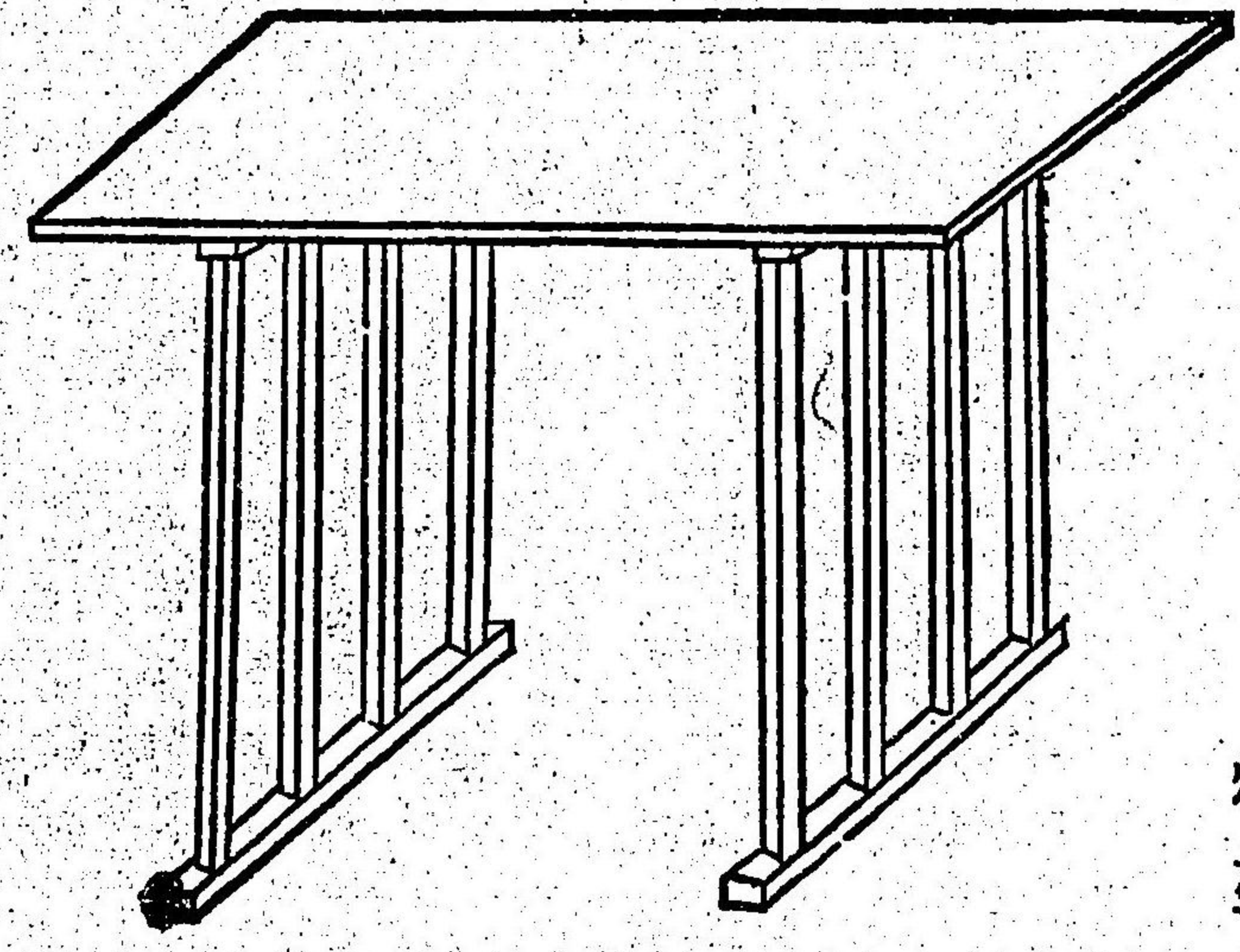


高サ九寸位



垂は五色絹又は紅白絹にて製るべし

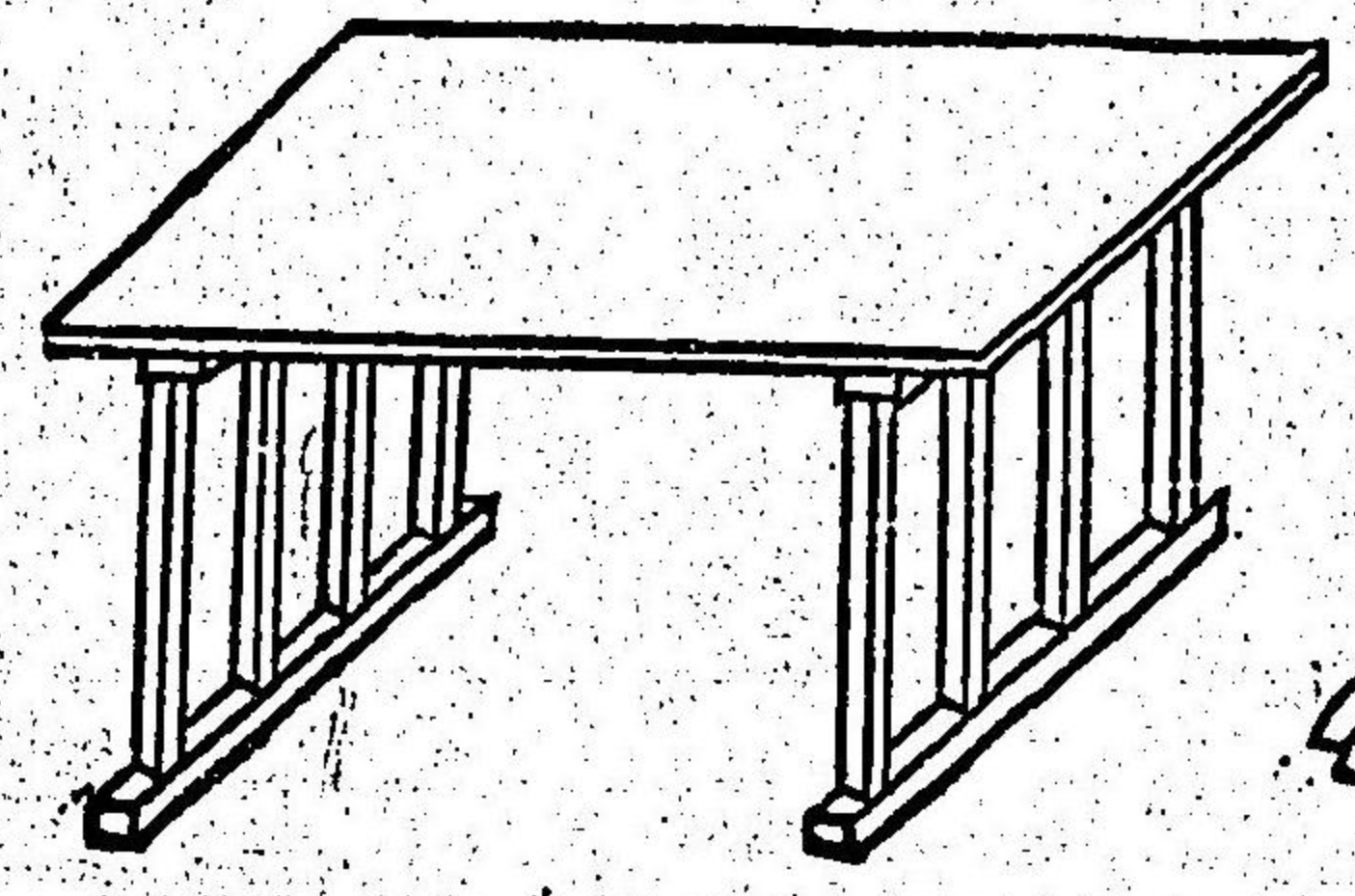
案高

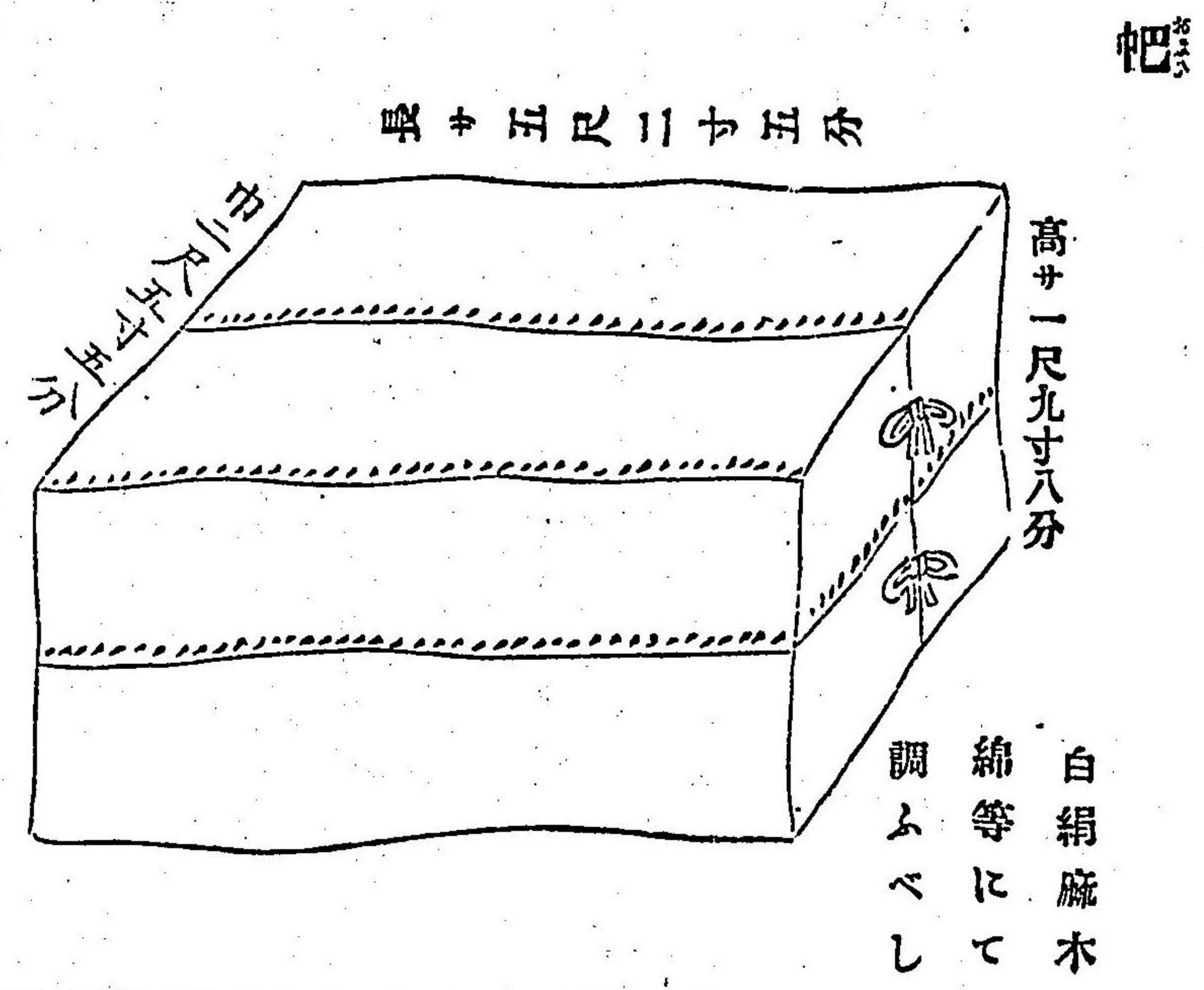
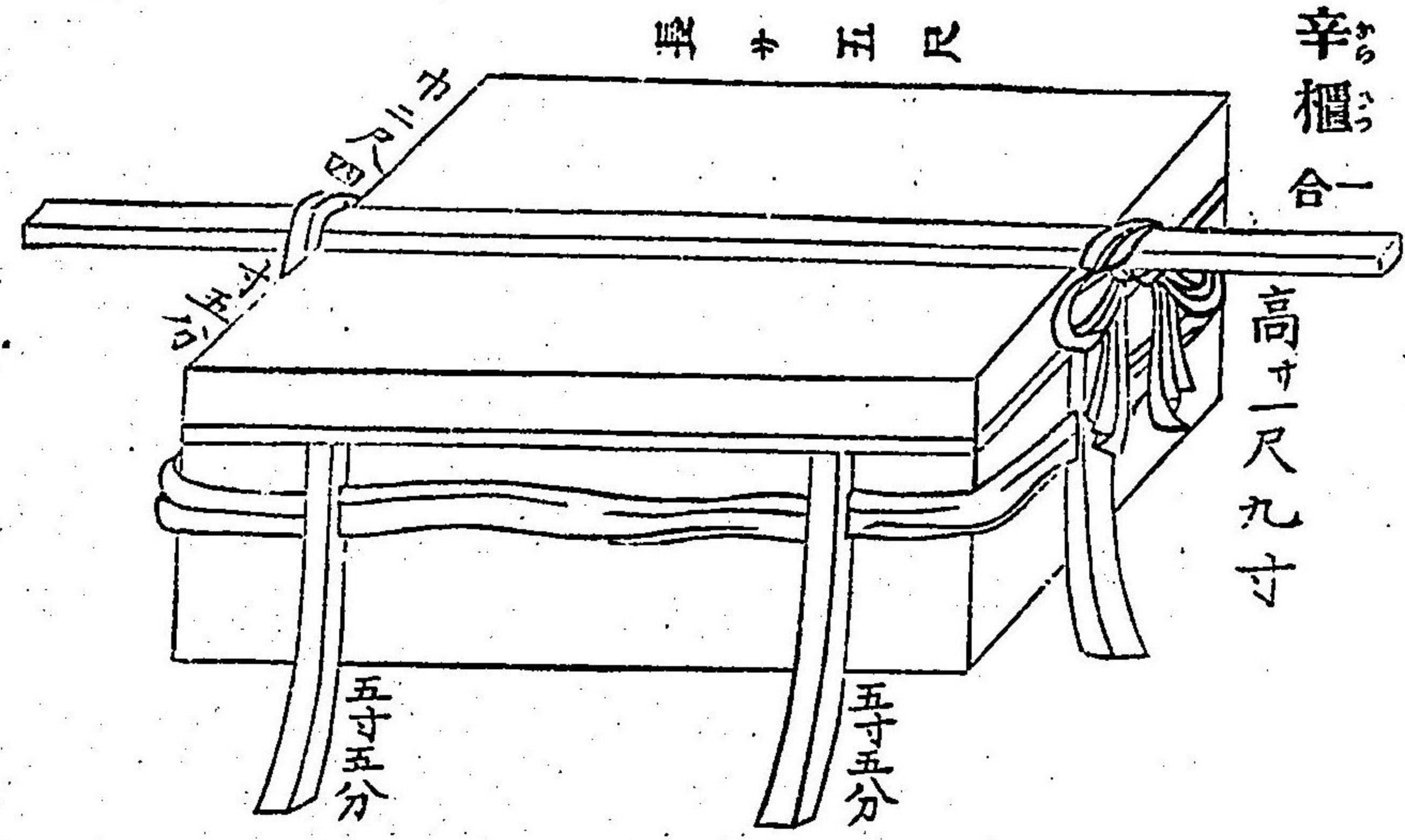
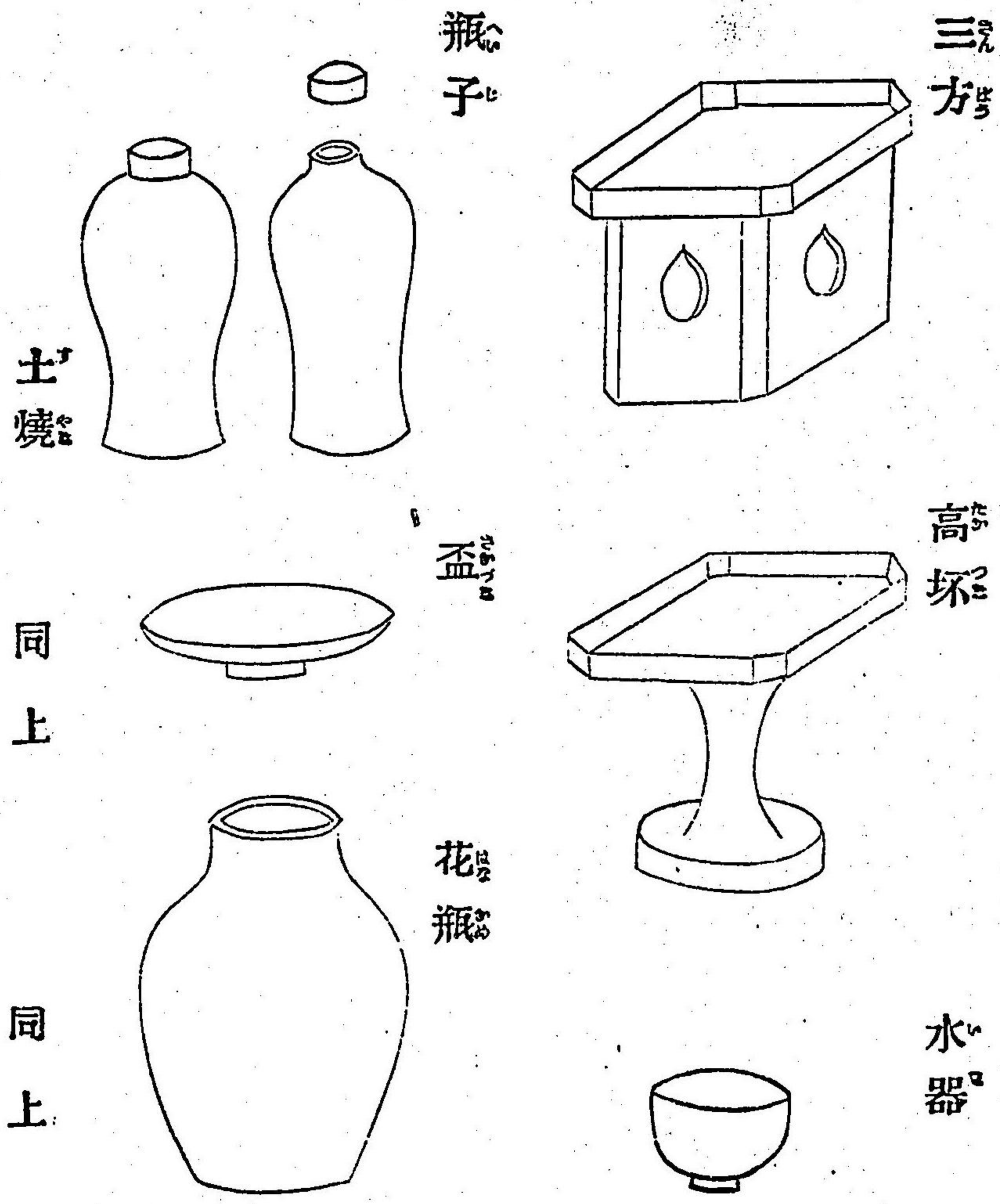


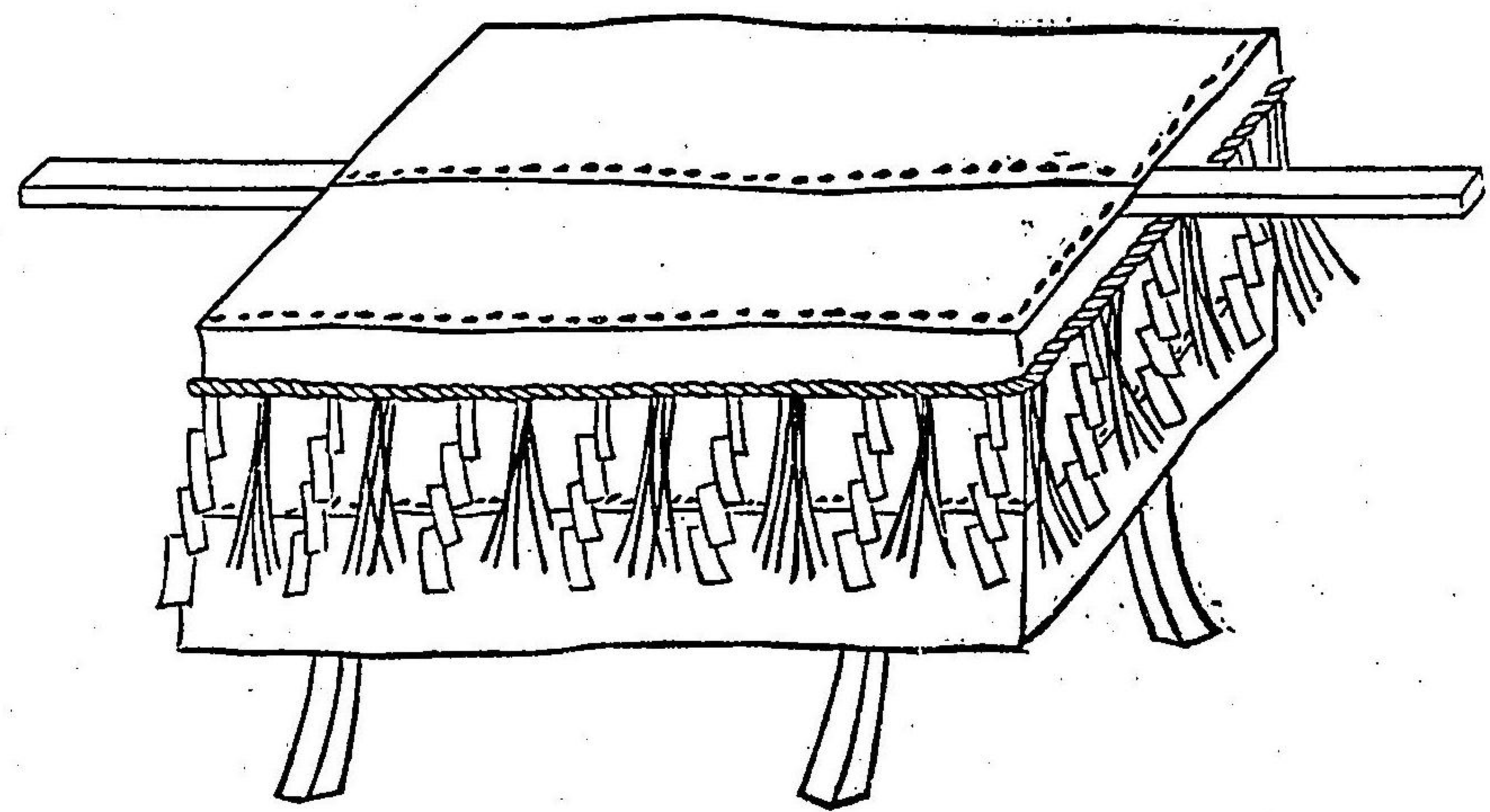
大小高低は其分に應じて造るべし

燈臺二脚

案串玉

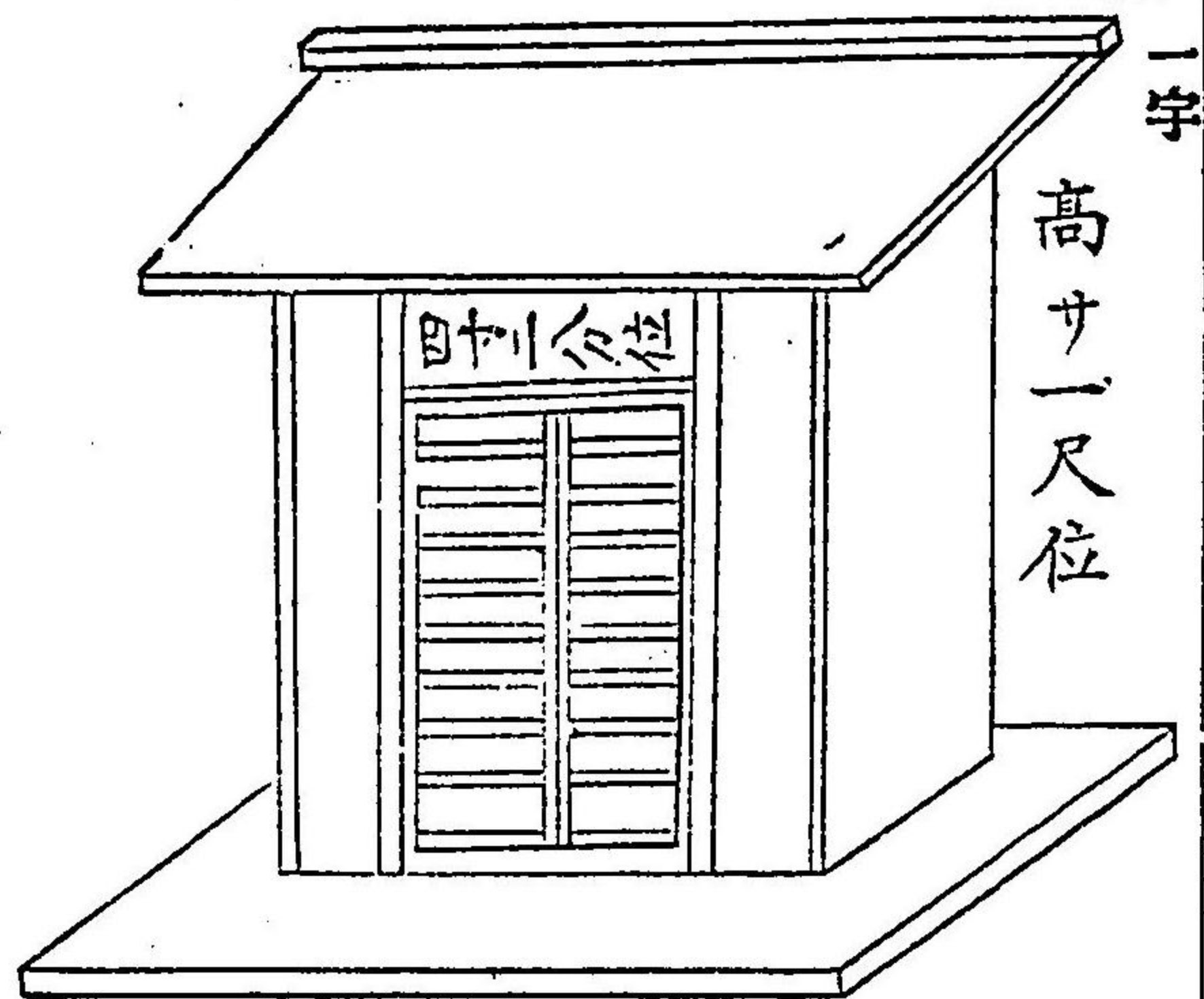






辛櫃に此
を花ほひ、
注連繩を
曳たる圖、

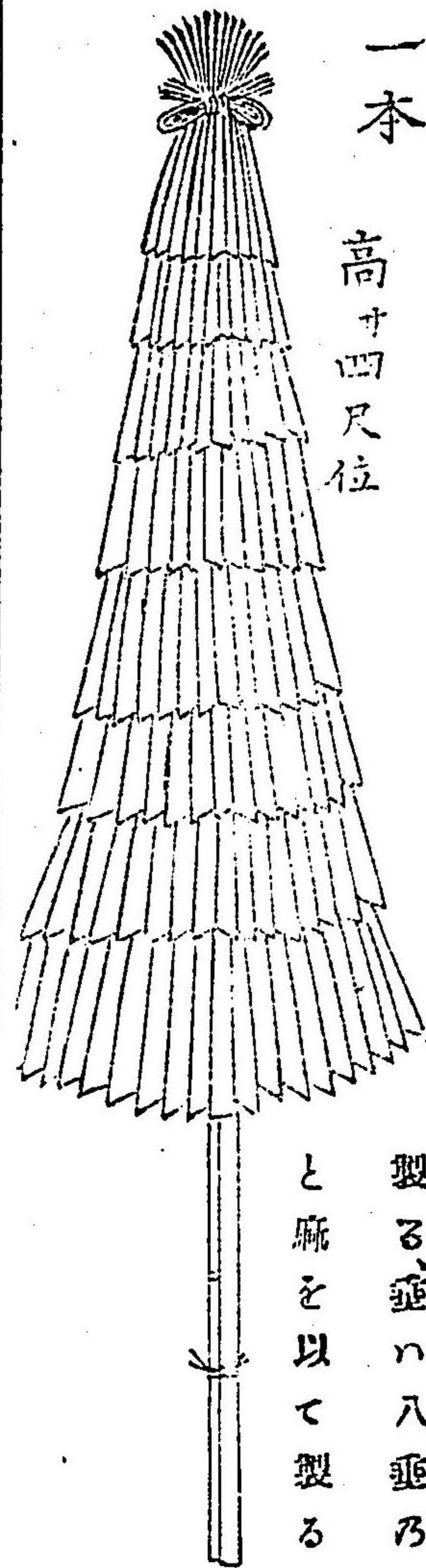
靈屋 一字



高サ一尺位

大麻 一本

高サ四尺位



麻ハ被料

材ハ檜
を以て
最上と
す、又杉
に略す
も妨な
し

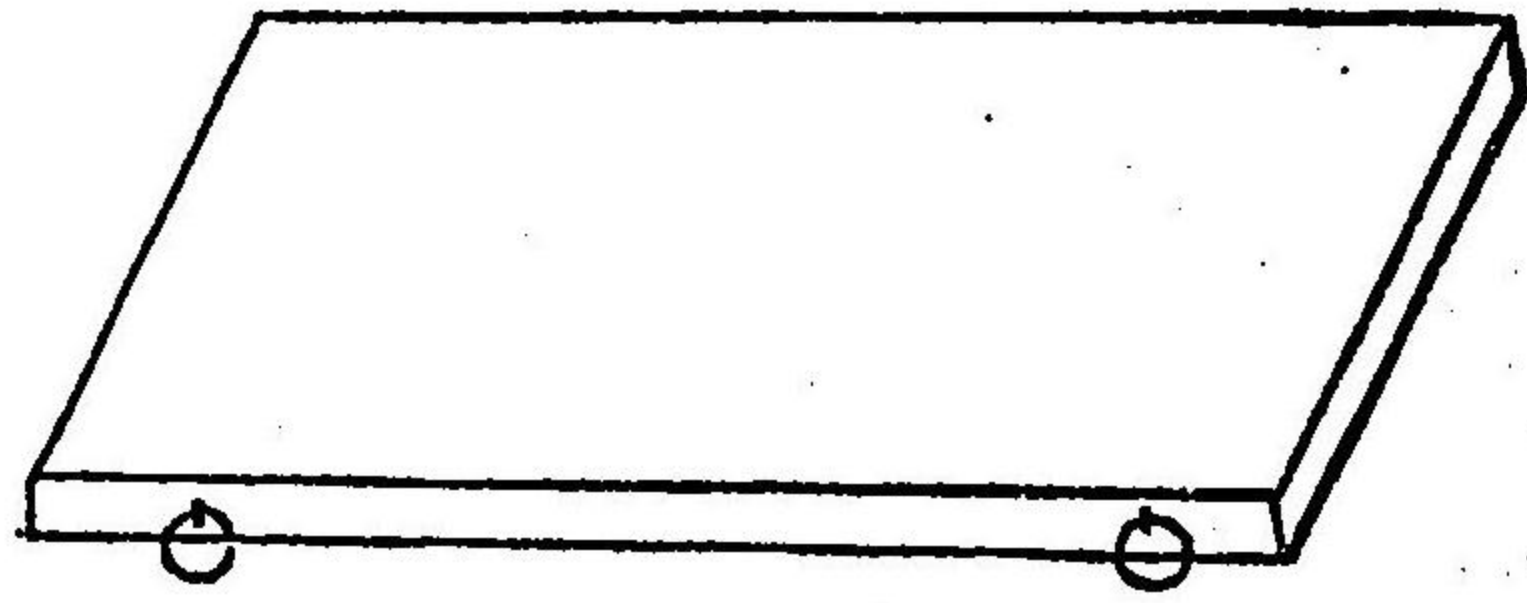
水器 二口



一口は盥水料、
一口は寄邊水料

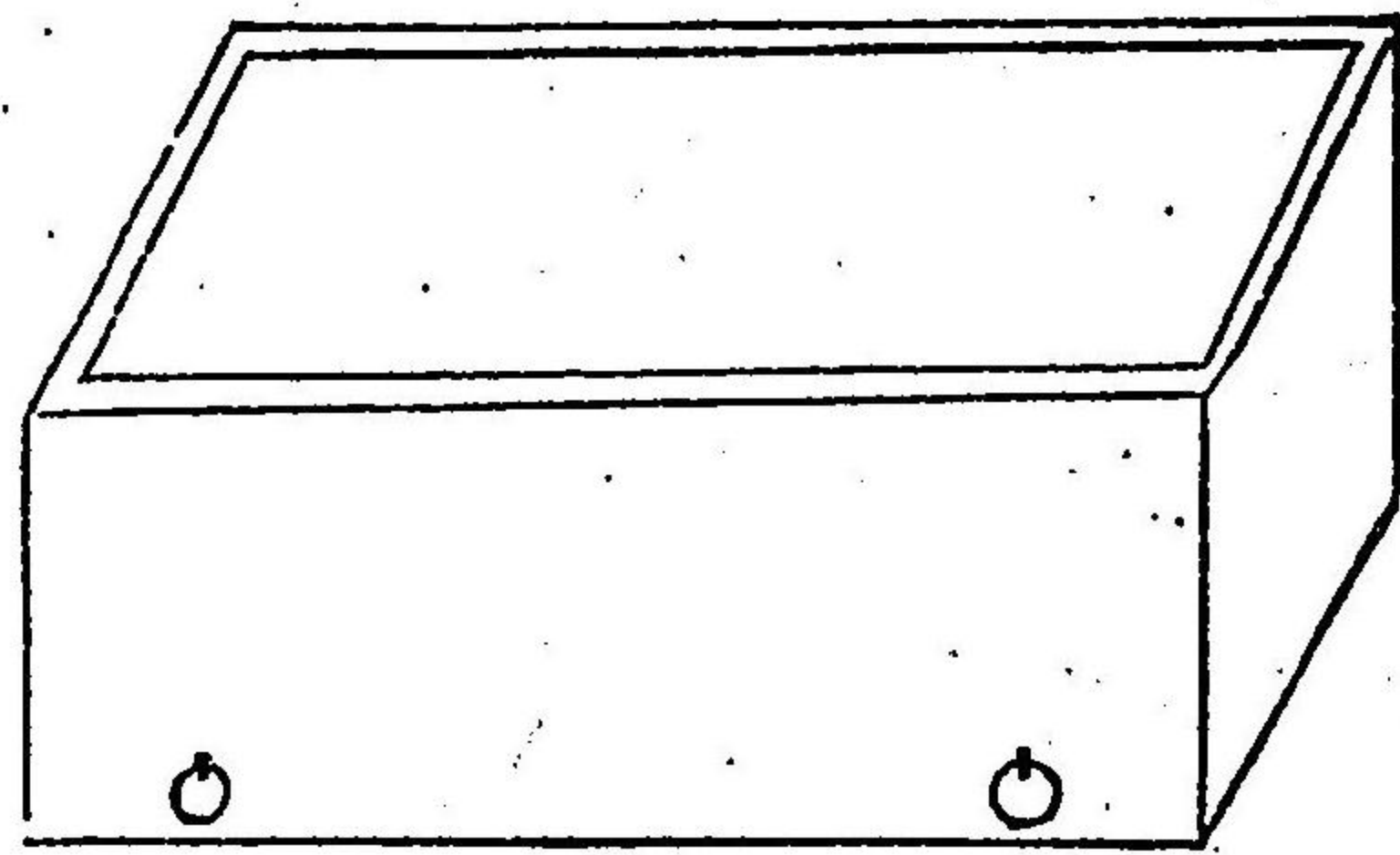
串ハ柳ト竹を合て
製る、垂ハ八垂乃紙
と麻を以て製る

棺蓋



鋲は細
かくる
料あり

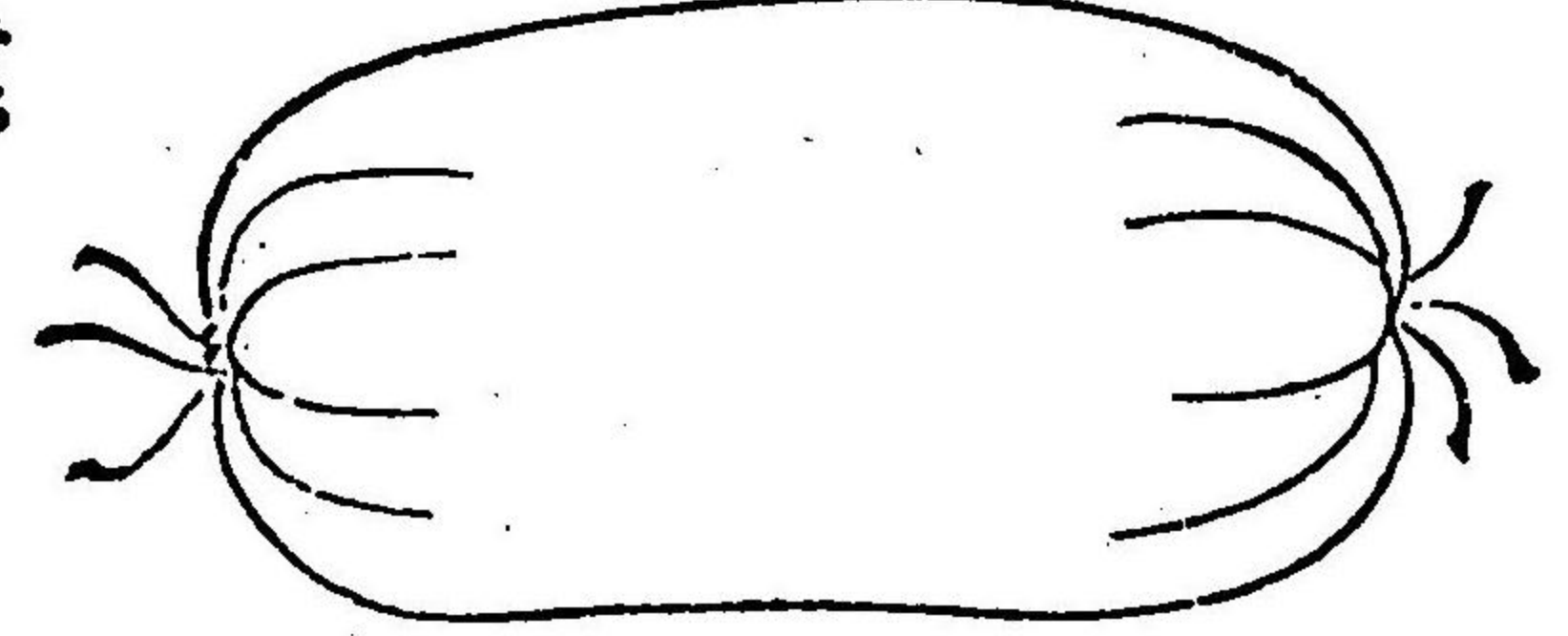
棺臥



墓誌

是ハ何縣何国何郡何郷
何之何某ノ柩ナリ生年月日
死年月日

枕一箇

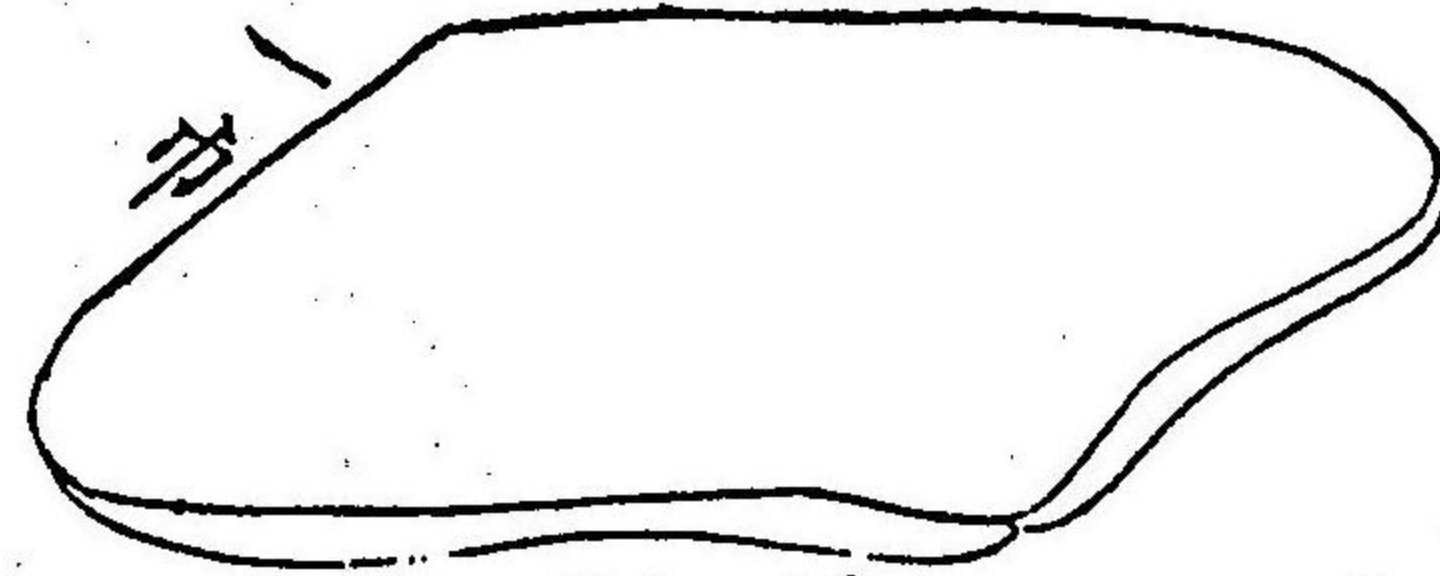


呷・川尺

充袋

何れも素絹又は
白麻を以て製る

縫を入
て製る

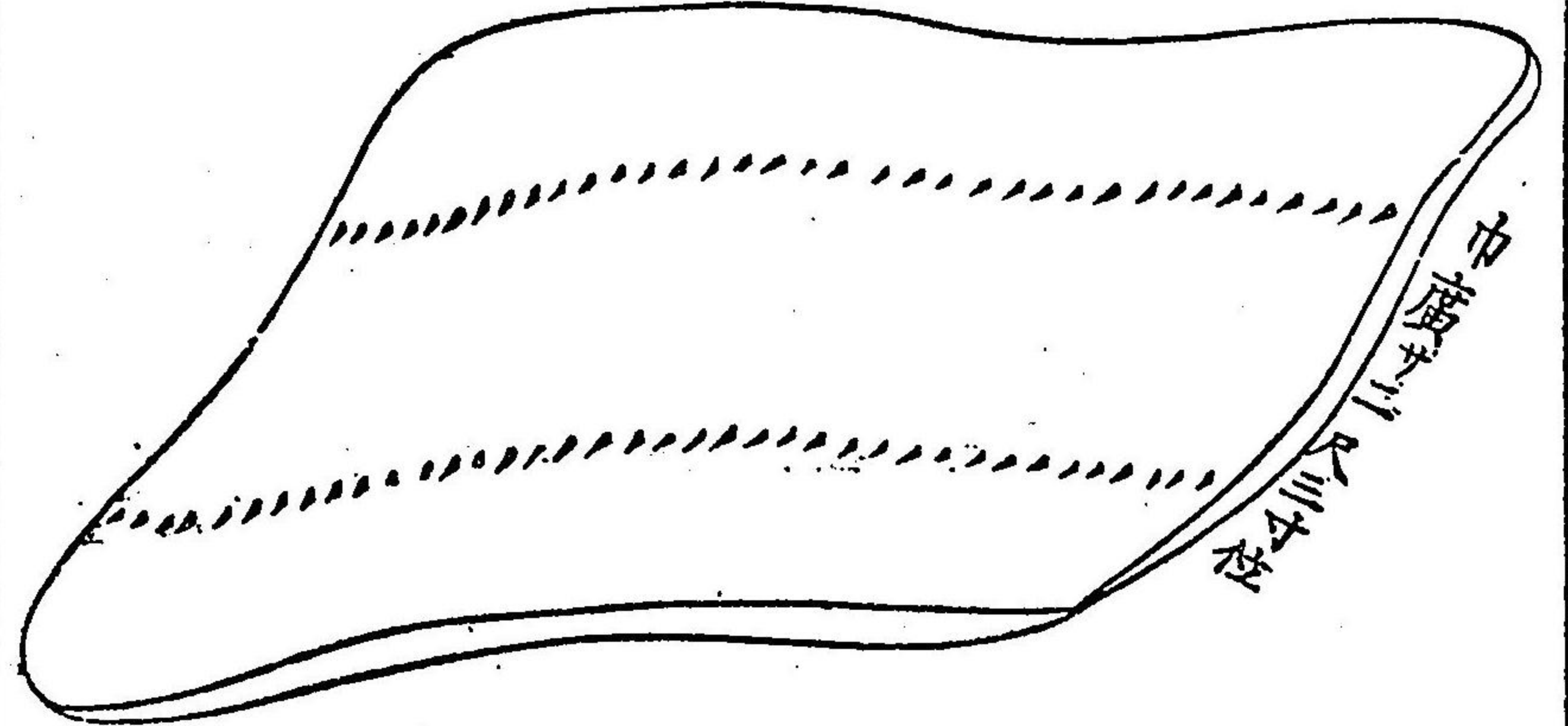


衾褥各一枚

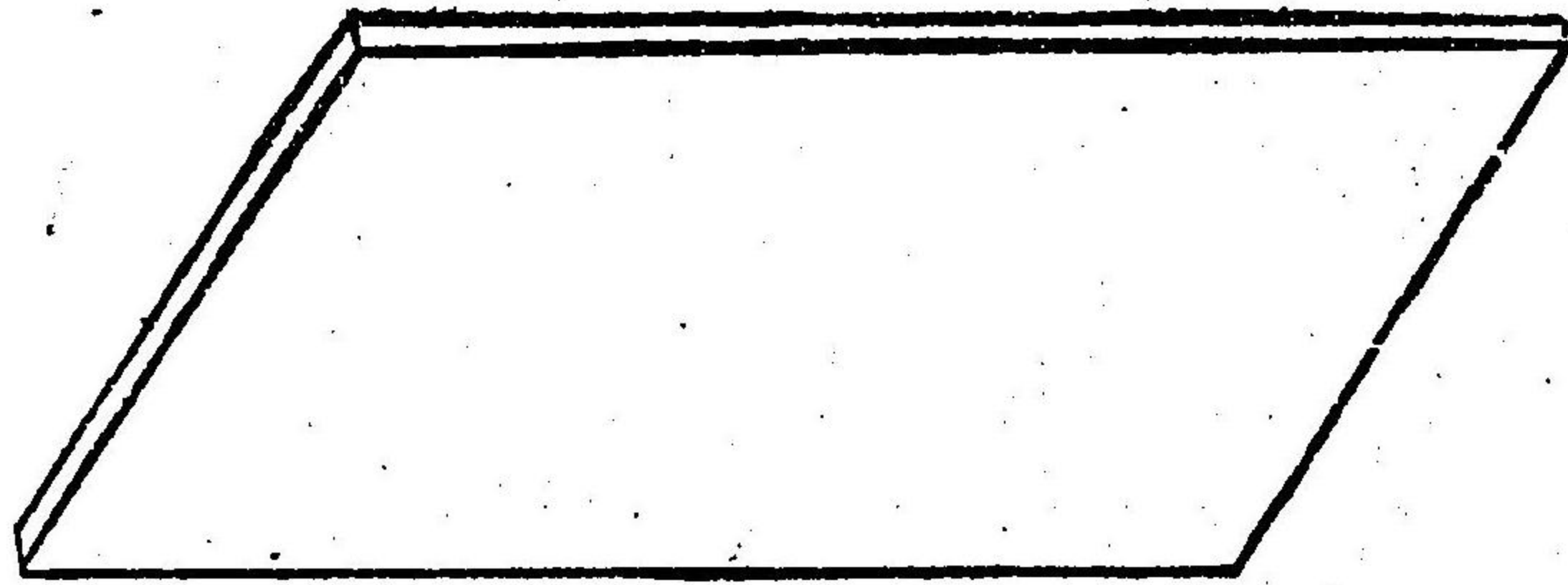
棺の中
詰る
縫

茶又ハ
糖等を入
れてつく

呷・五尺七寸



蓋

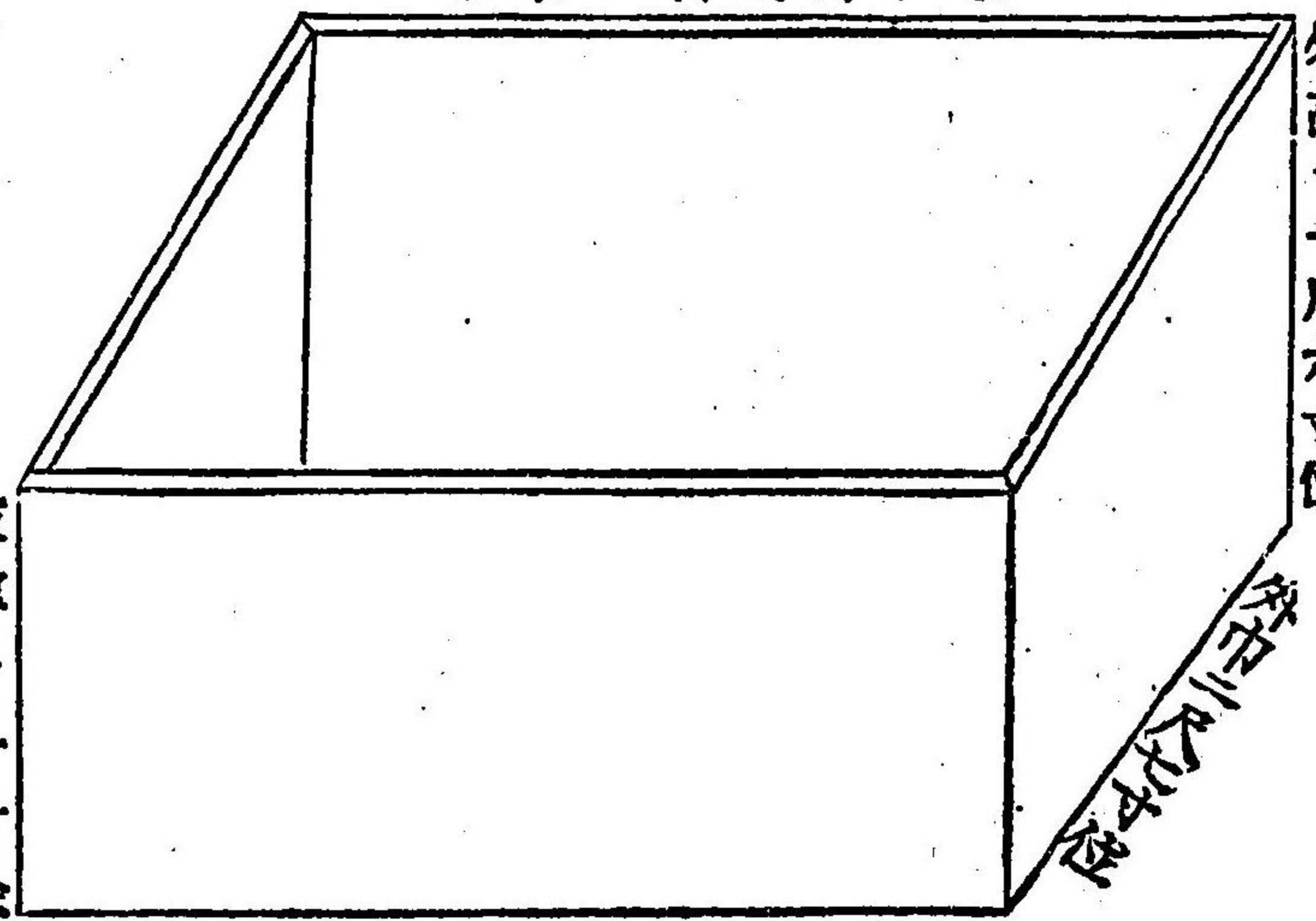


板厚一尺三寸

榔

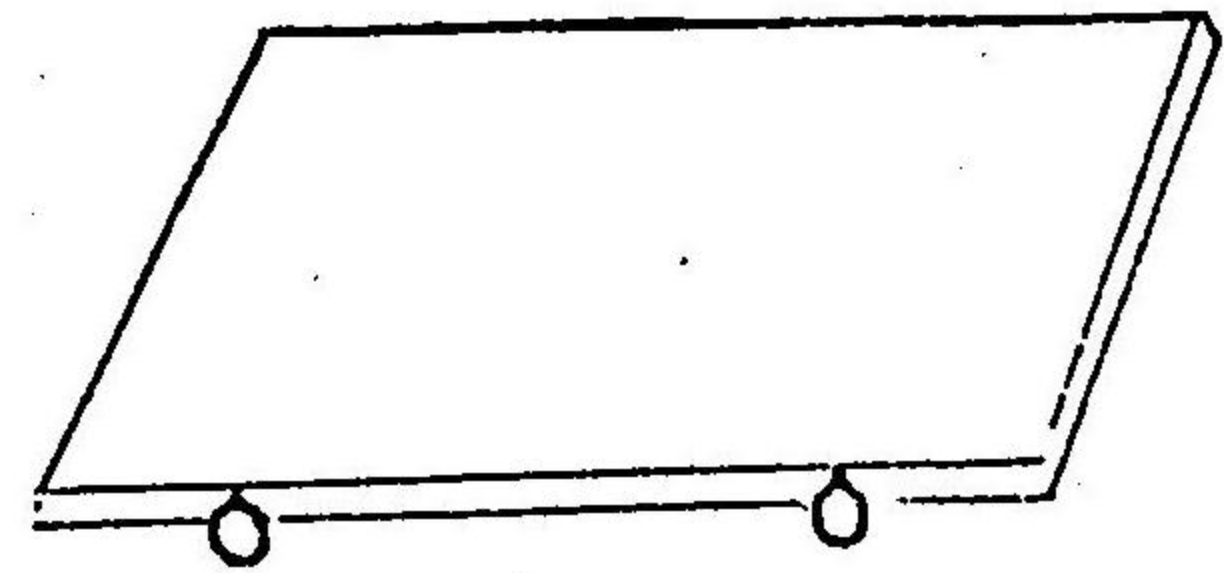
外高一尺六寸位

板厚一寸余

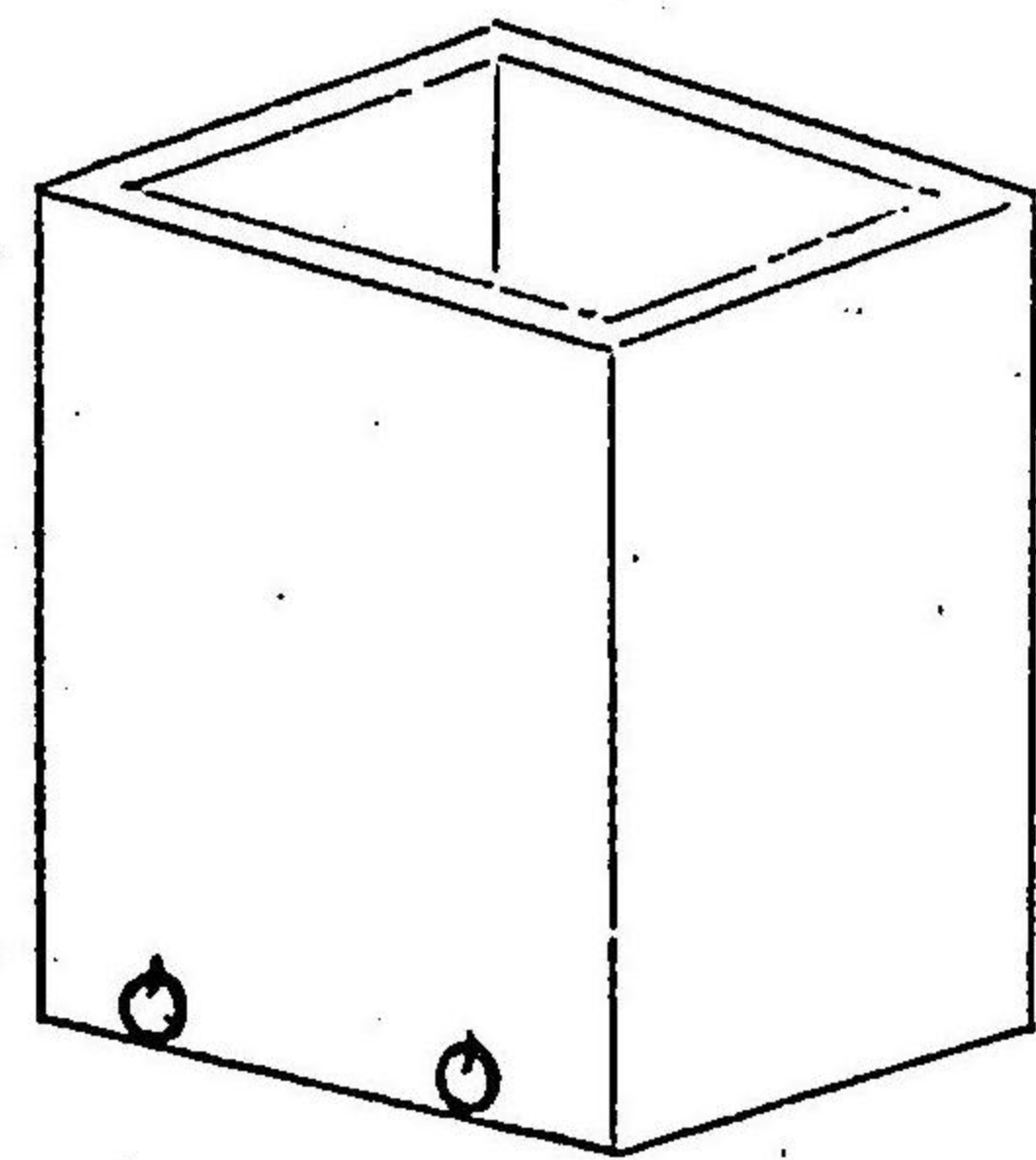


う用を板松

蓋



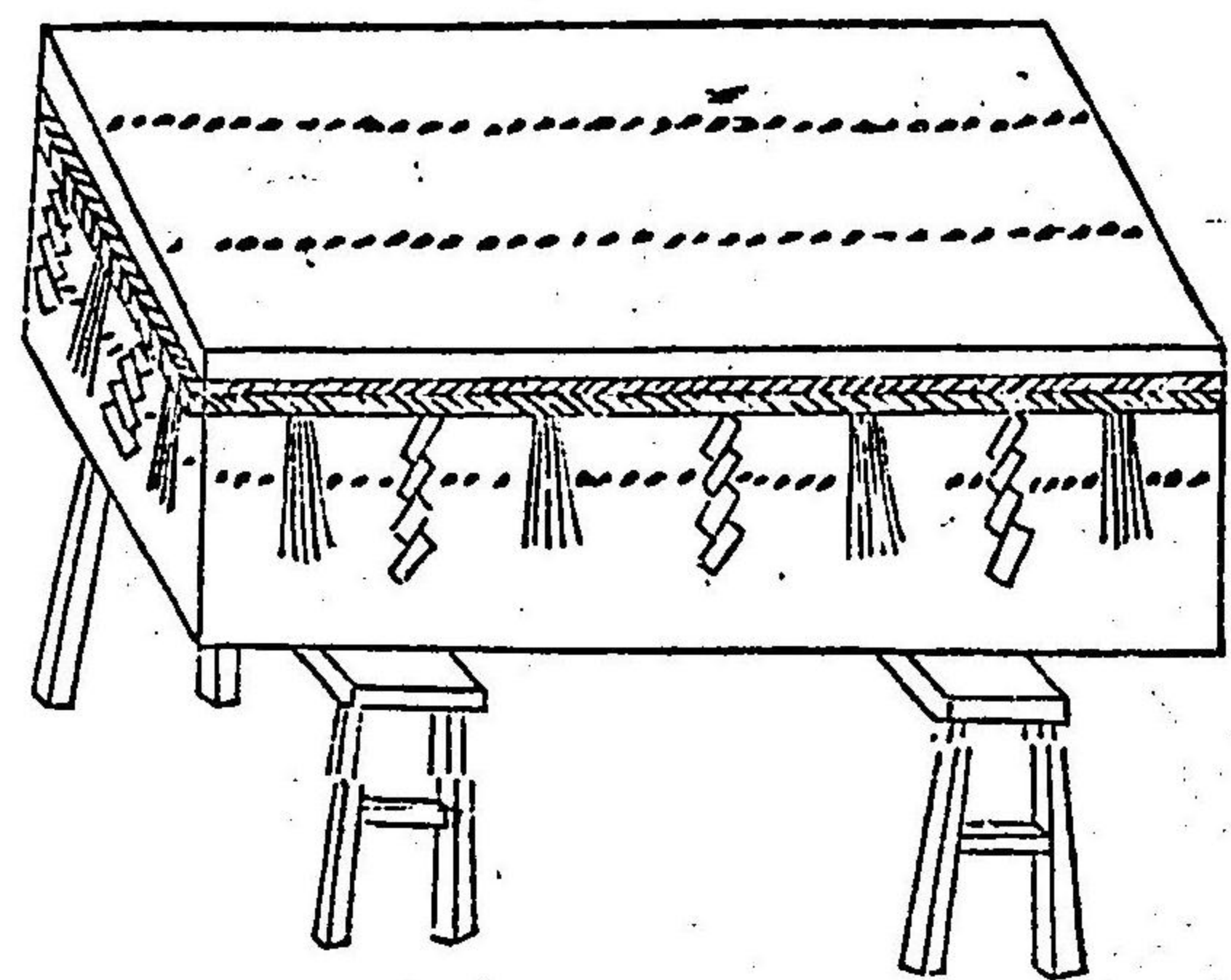
坐棺



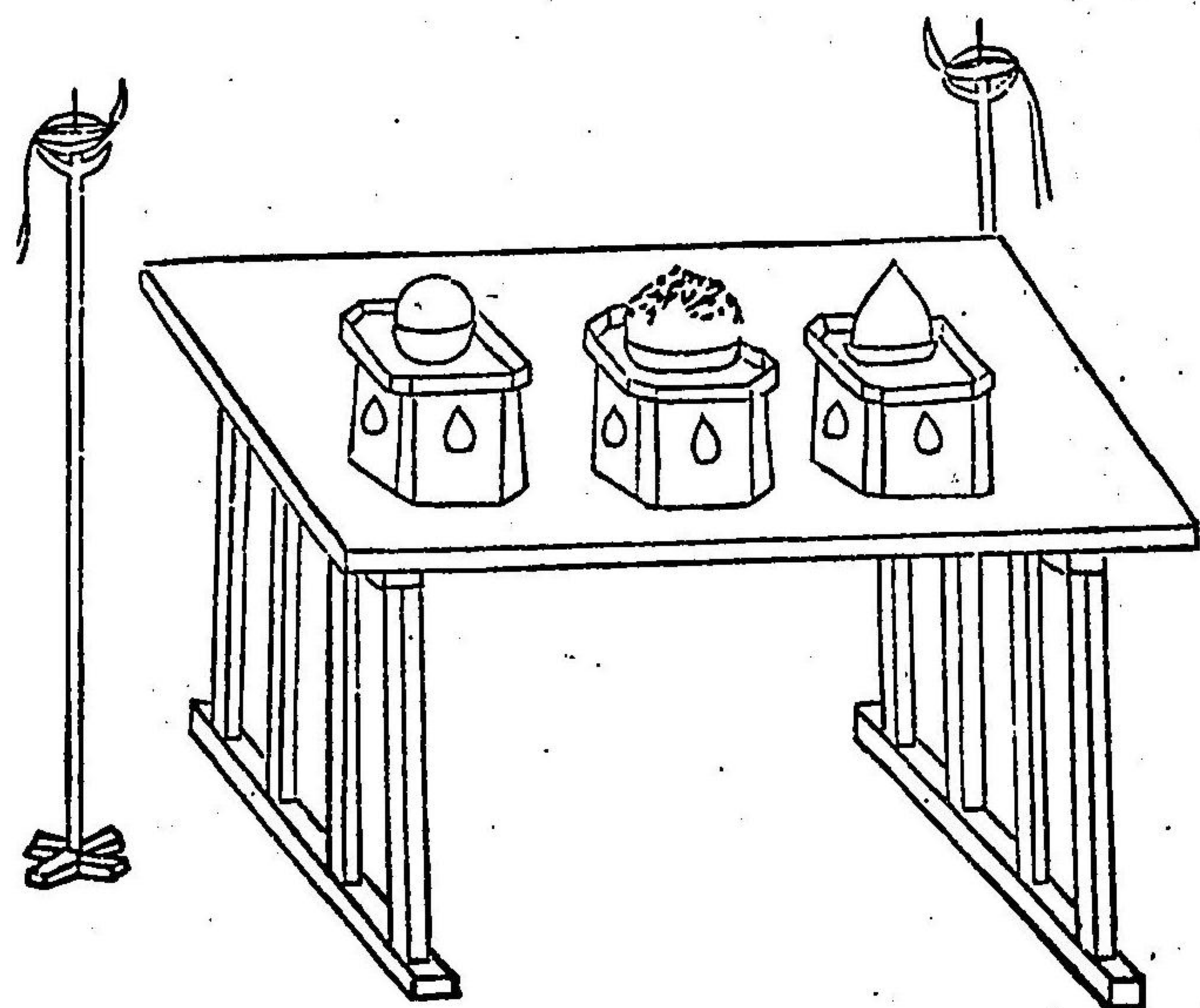
棺の造り方は二重三重又は五重七重もあれば其喪家の好みに任すべし又積は番瀬青の類を用ゐべし

榔は棺は寸に應じ二寸余れ甘きを付て大に作る土を防く爲めれば板もうすく削りもあらくてよし

坐棺の榔は後圖寢棺の形に准ひて作るべし



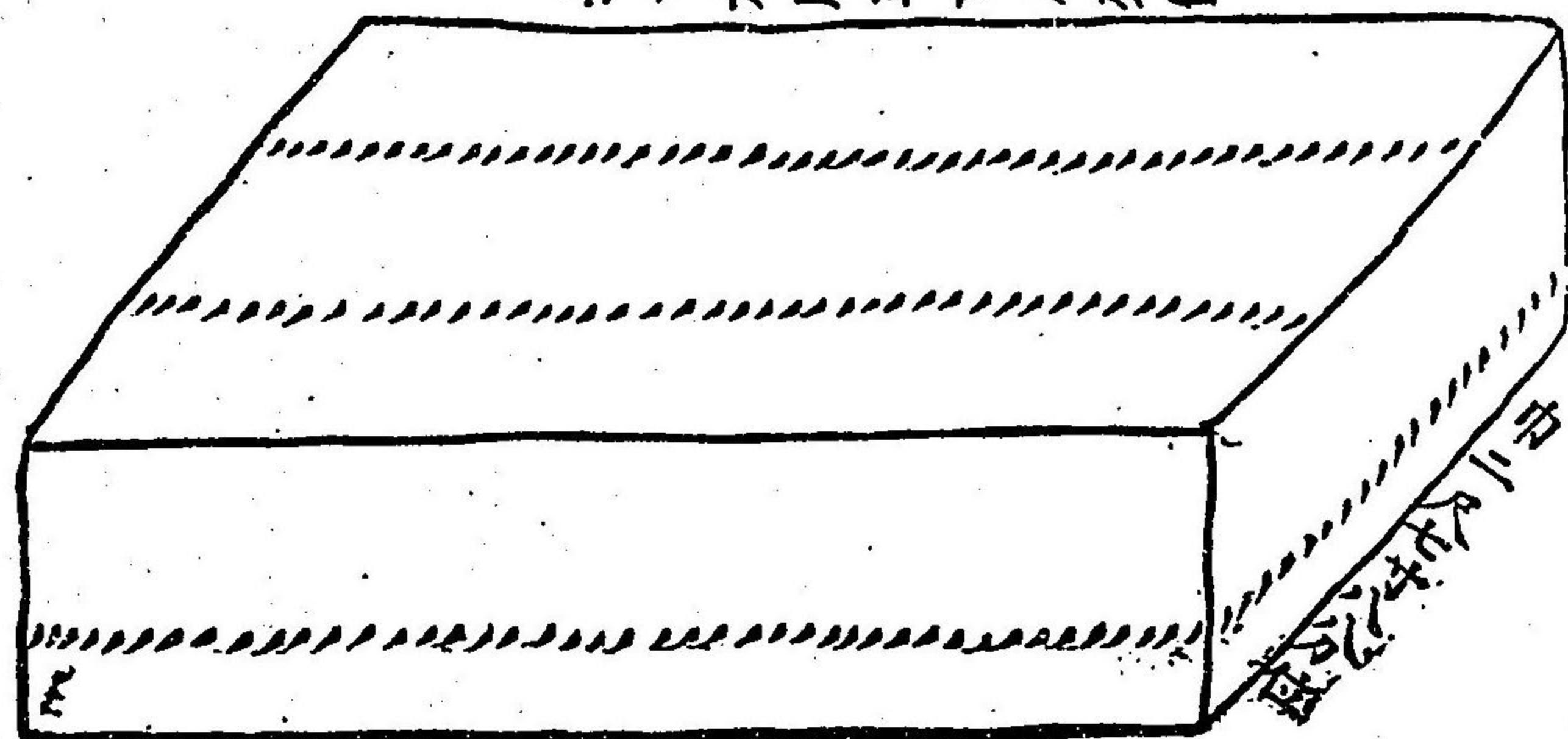
遺體を棺に歛め柩を掛け注連繩を
張りて凳子に安置したる圖



七十一

柩

長六尺三寸八分位

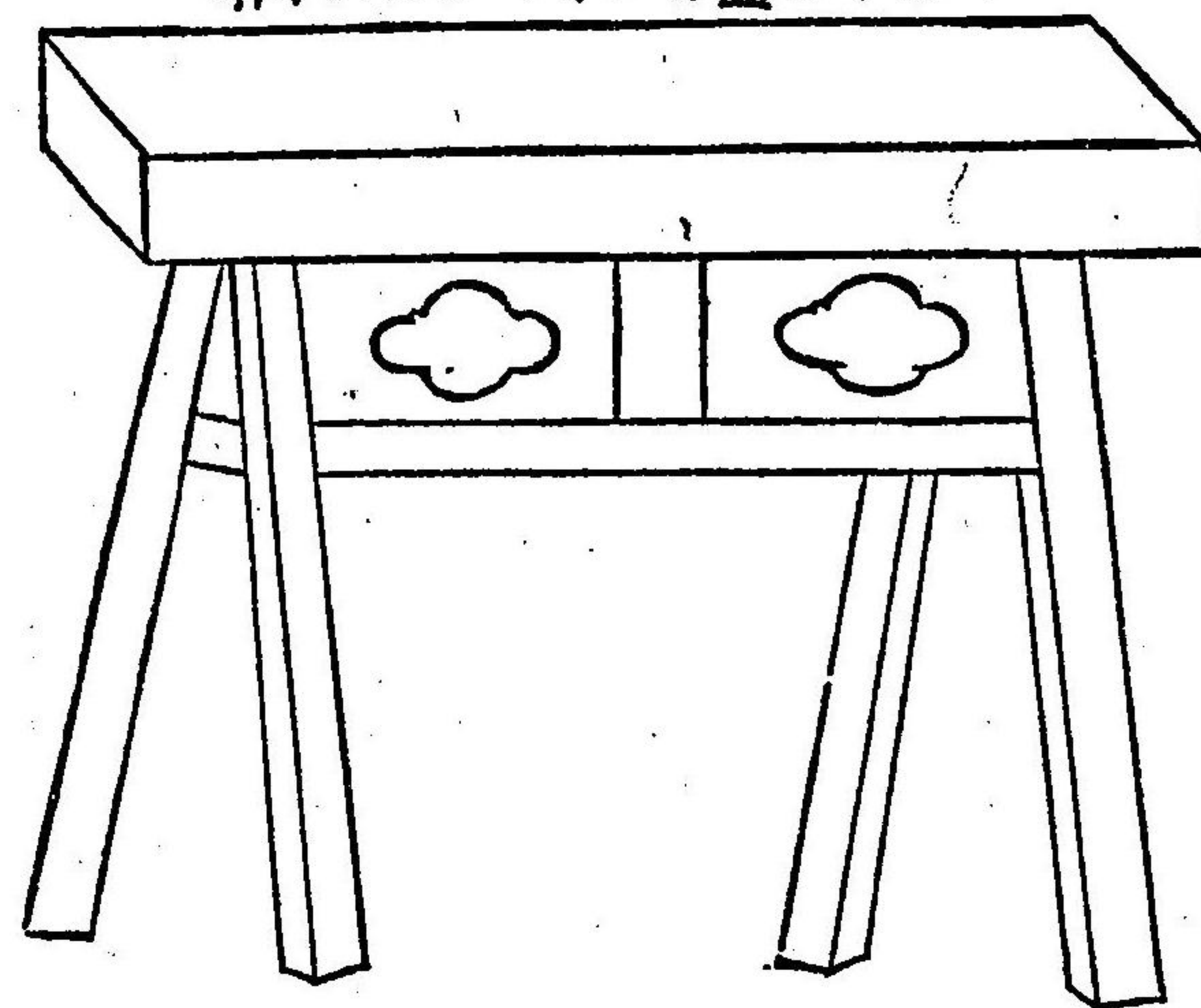


高さ一尺六寸八分位

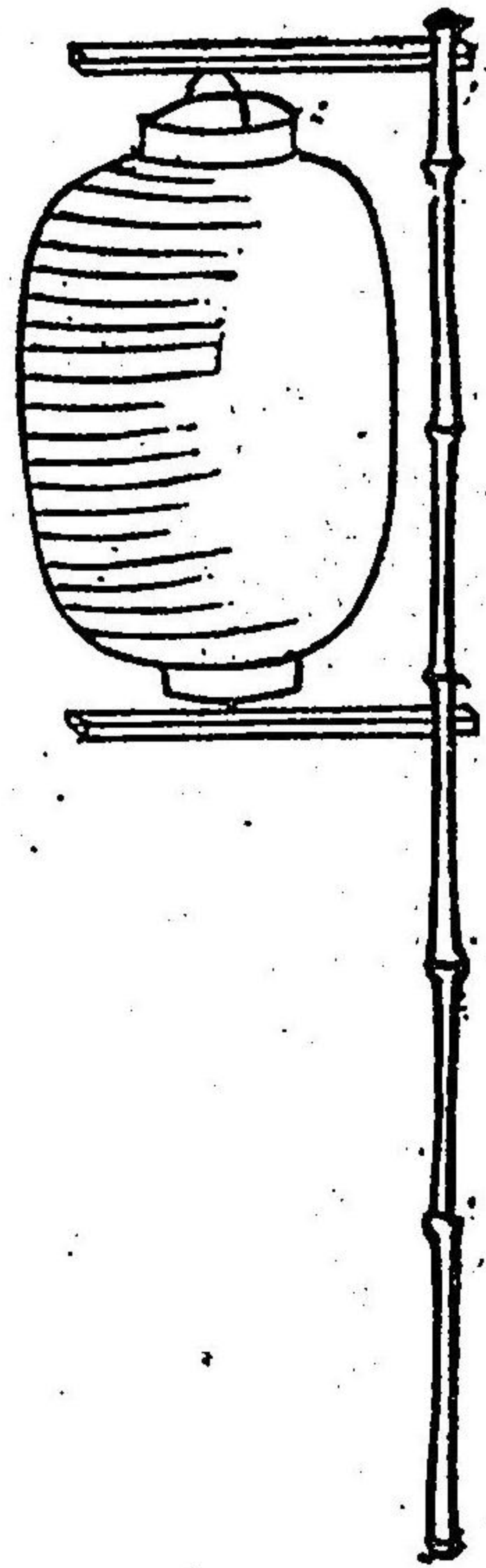
幅一尺六寸八分位

凳子二脚

長一尺六寸八分位



灯
燈



杖
袋



同上

白
杖



長廿五尺八寸位

蒲



長四尺

乘
炬

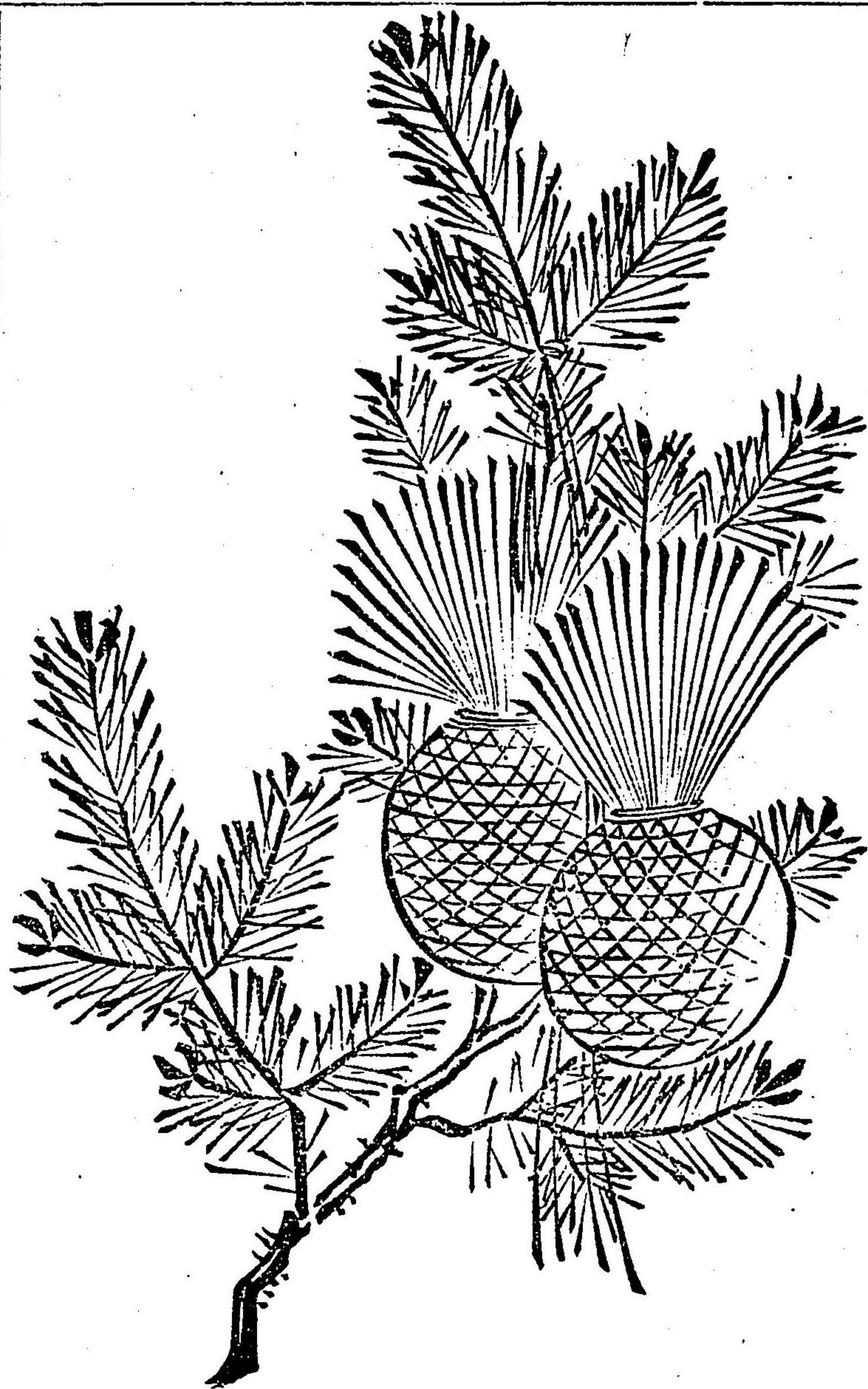


長廿四尺余

桃
薊



長廿三尺五寸位



若松わかまつ籠かご

高たかサ七尺余

籠かごニハ葉はヲ入いルベシ



紅梅こうばい雉けい子こ

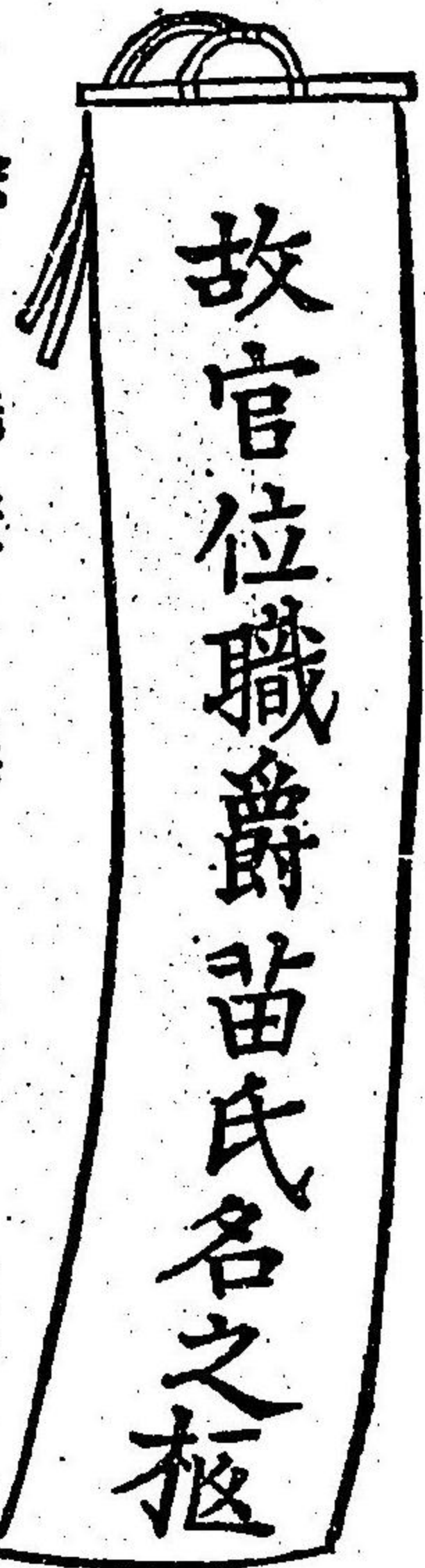
高たかサ七尺余

秋顔



高サ七尺余

銘旗



旗竿

但し紅白の旗も此圖に同じ



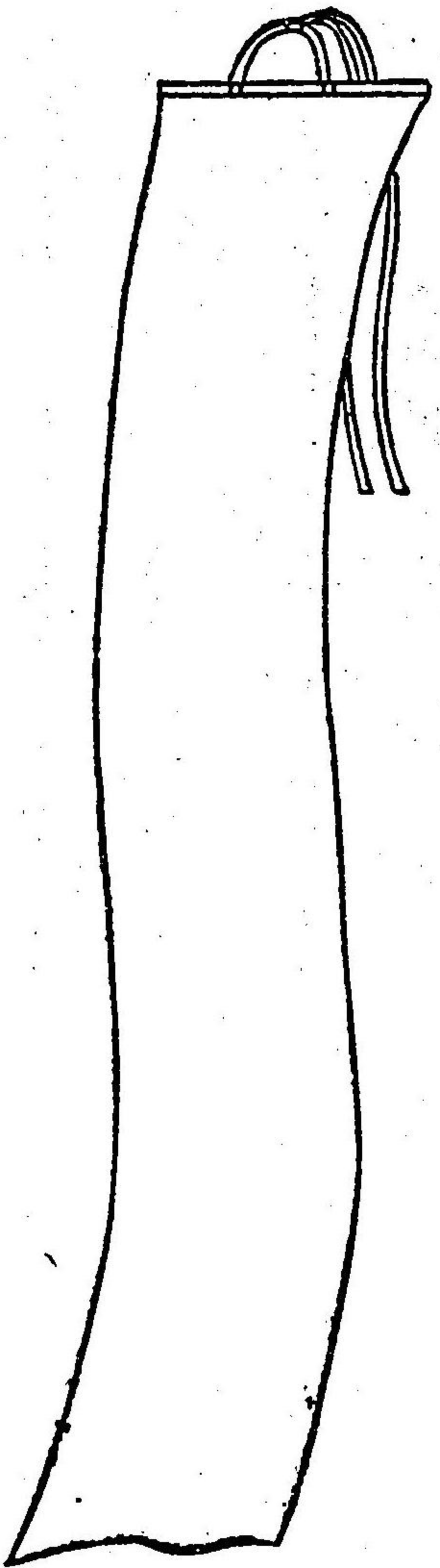
墓標



白旗赤旗

長サ七尺五寸位

素絹



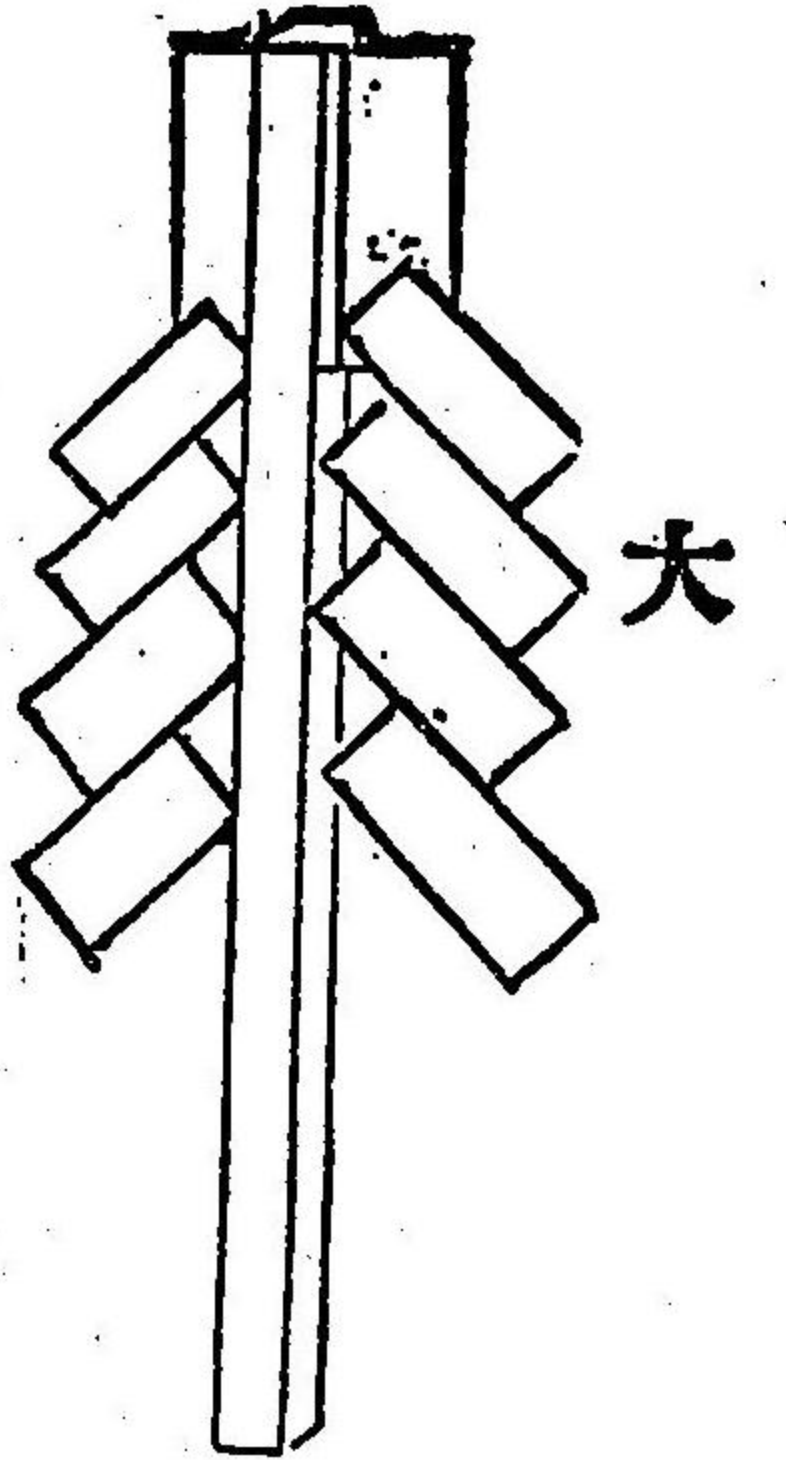


紅
楓
鴨

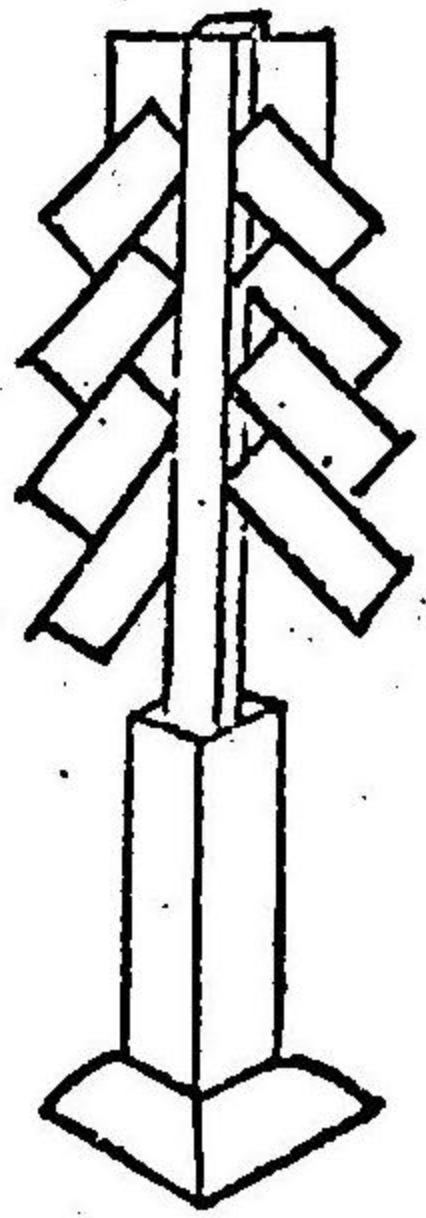
高
サ
七
尺
余

幣

麻



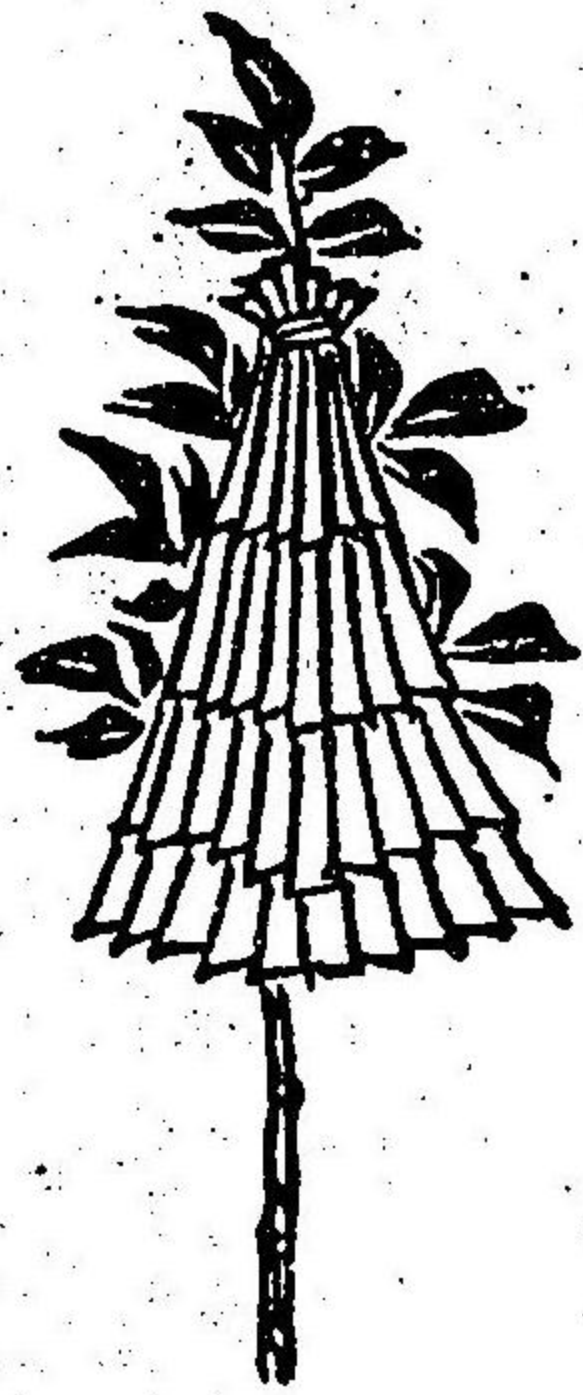
大



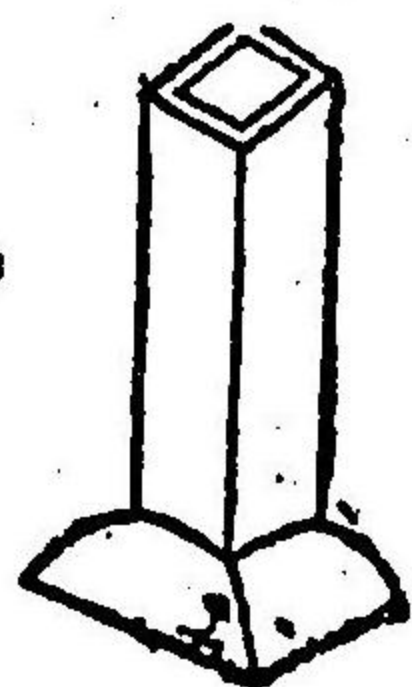
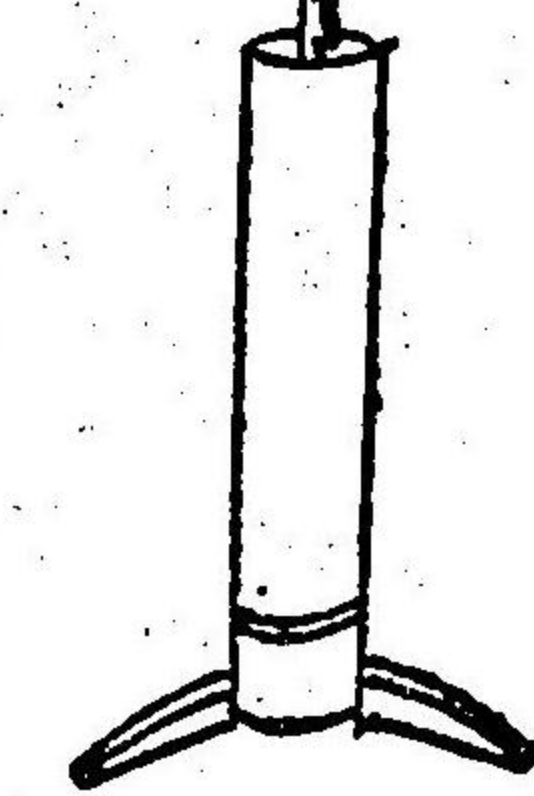
小

棟に垂は入垂の紙と麻とを以て製る

玉
串



垂は紙を四垂に切て書く



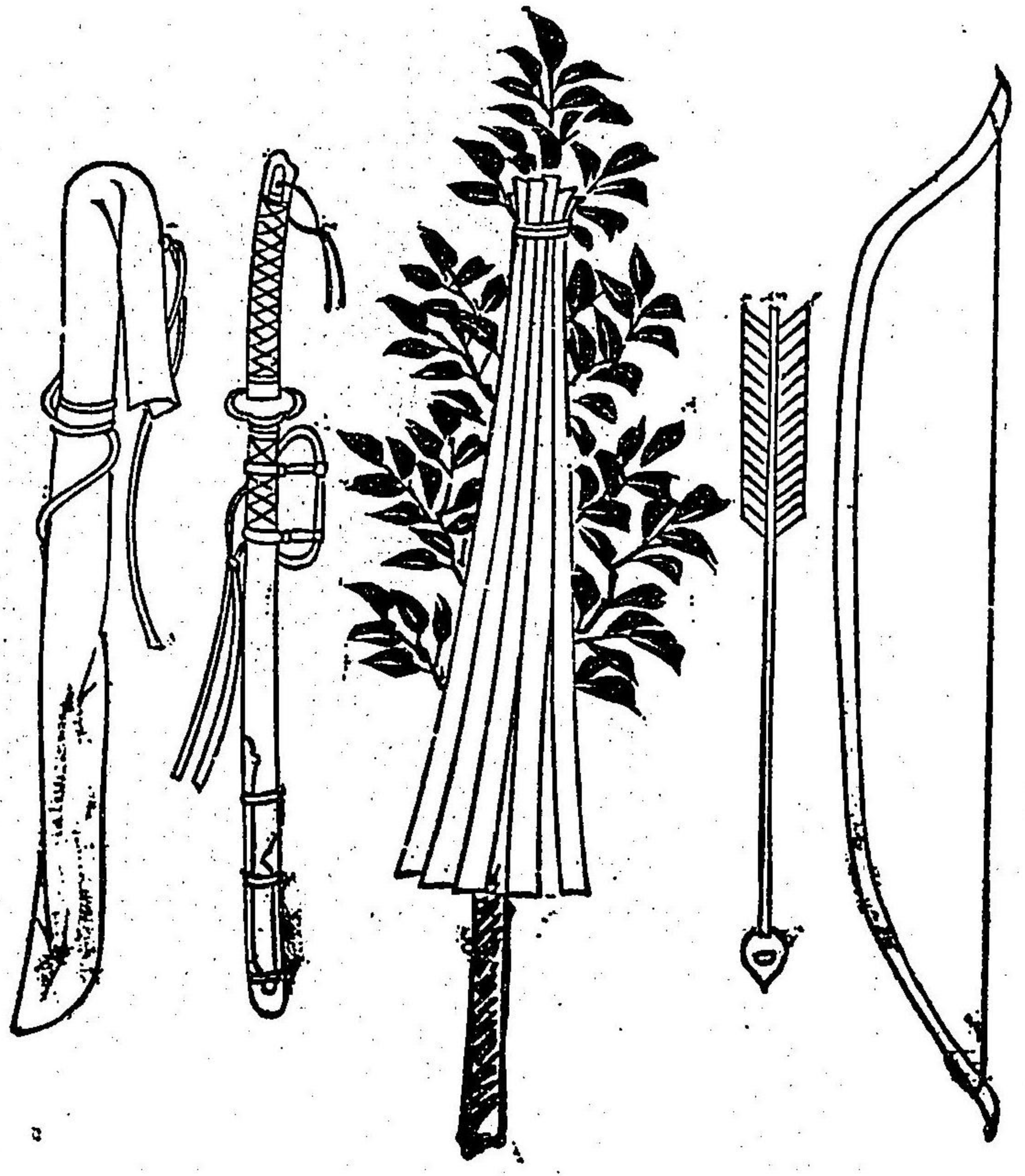
白木弓二具

白羽矢四本

絹繡に五色

太刀

同袋



撞木杖一本

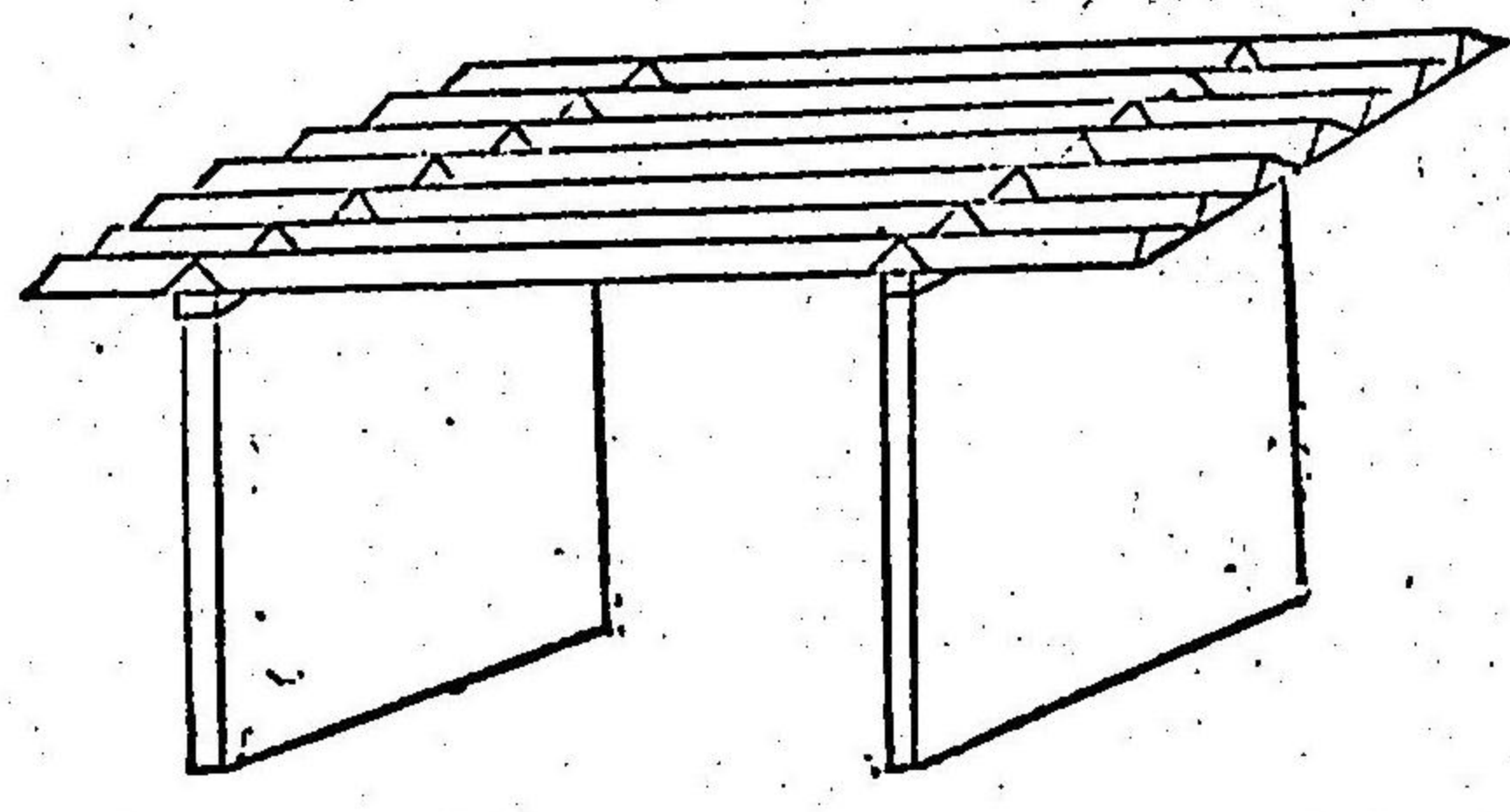
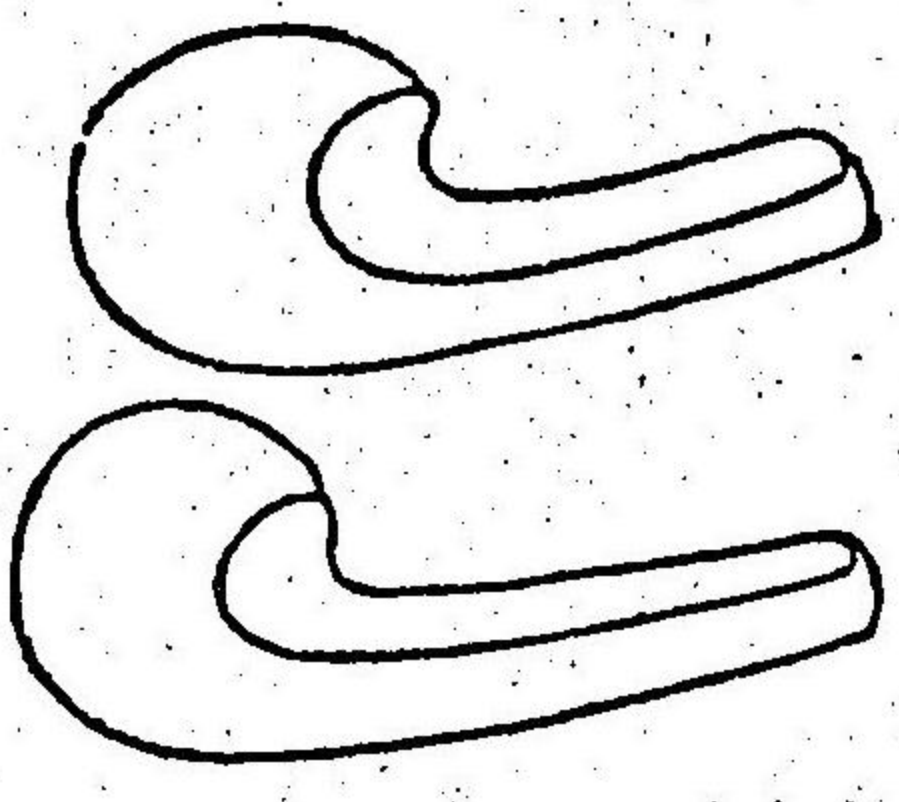
同袋一枚



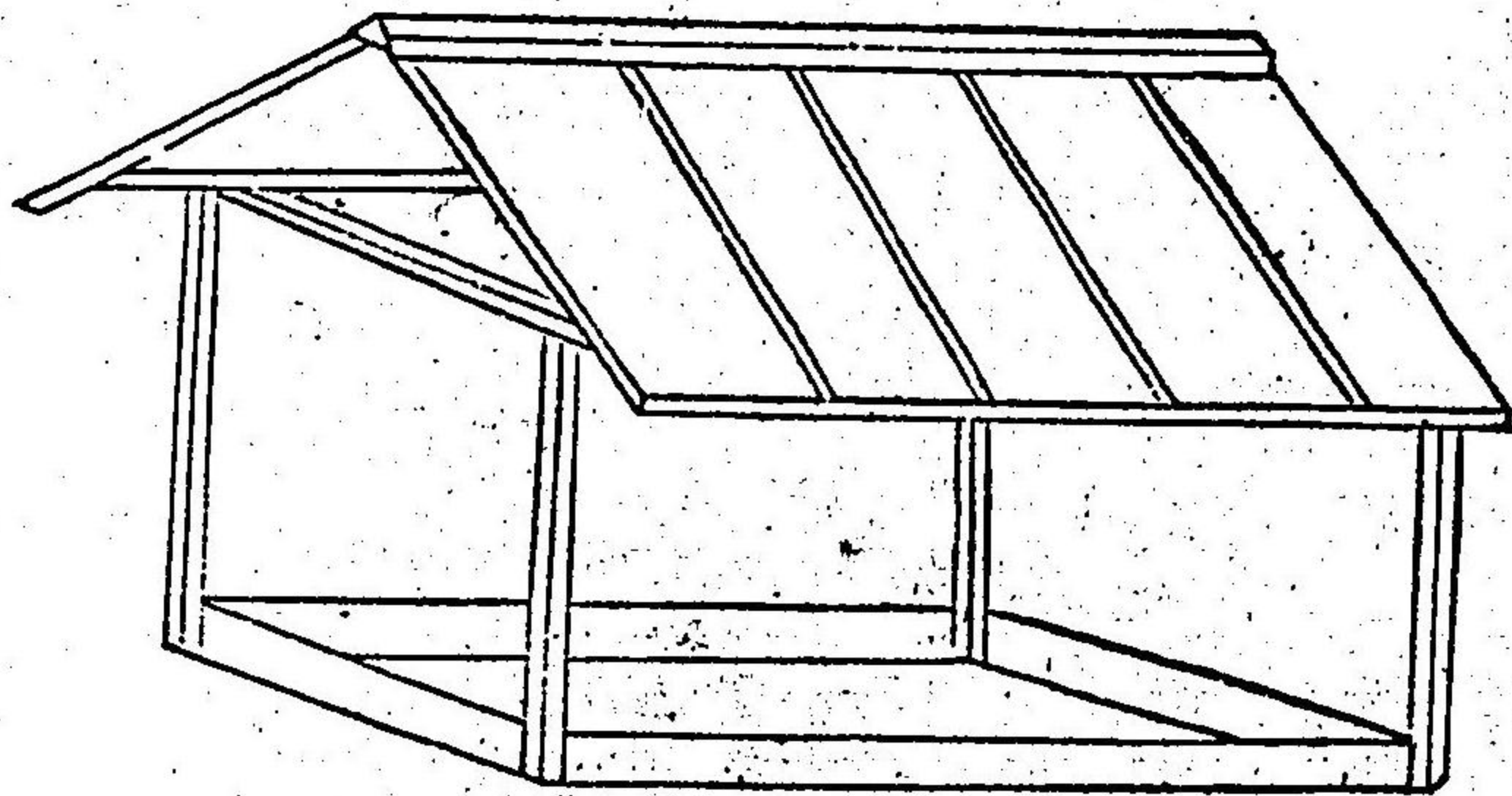
表素絹
裏白麻

香一具

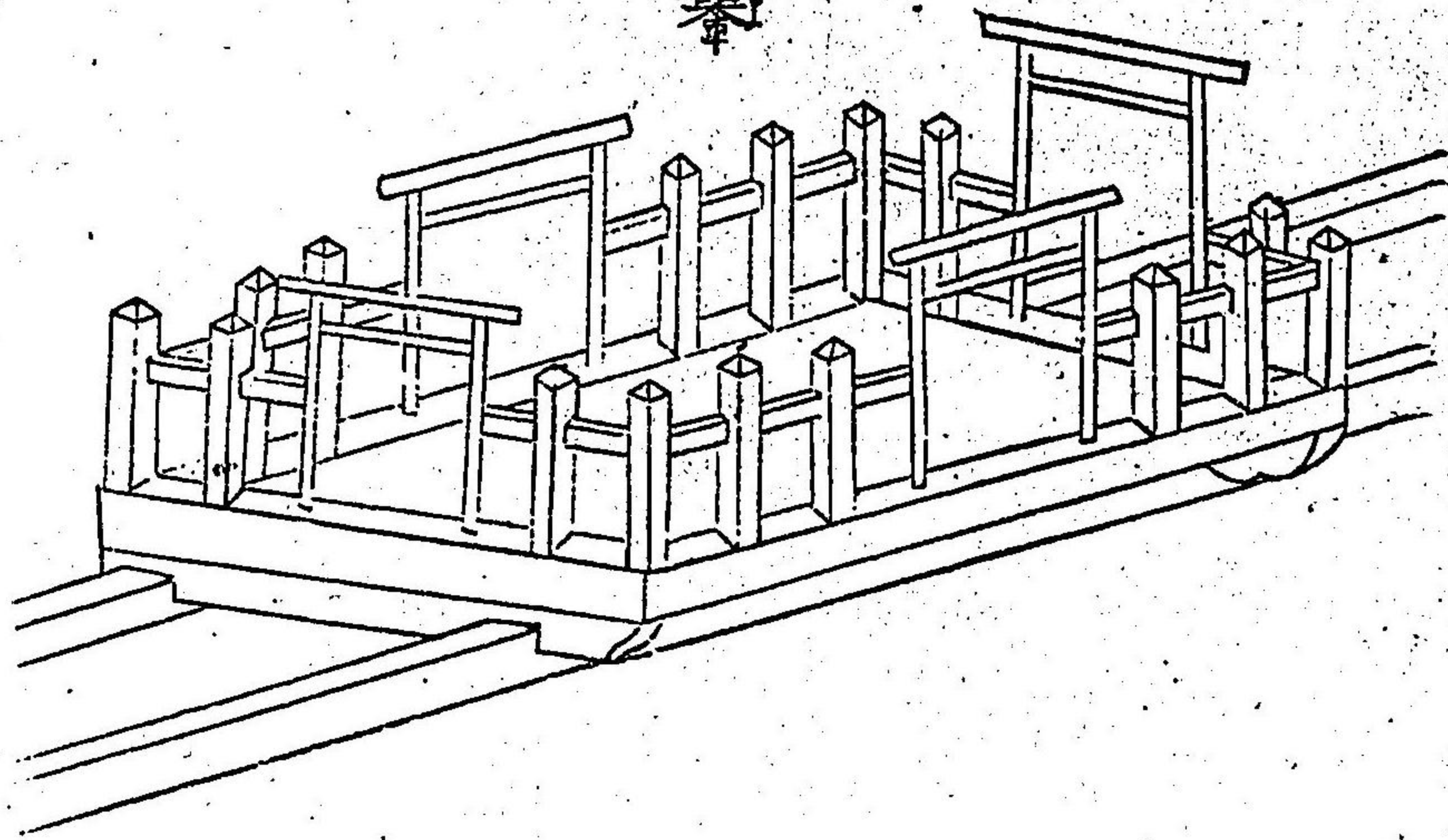
香臺一脚



棺屋根

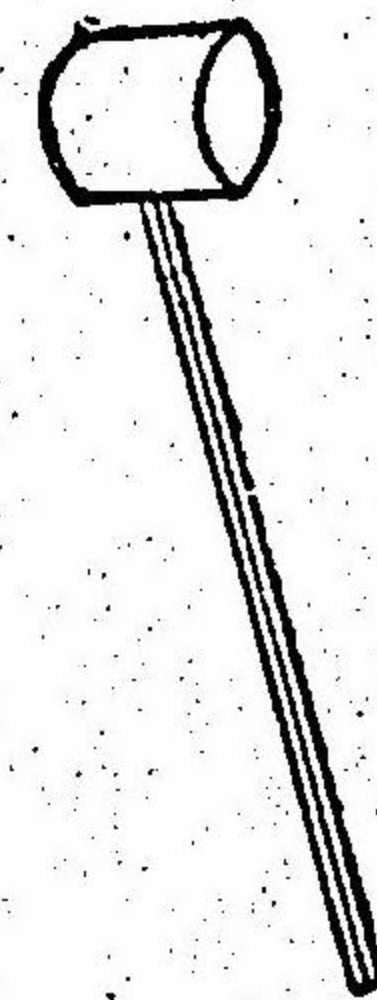


大擧

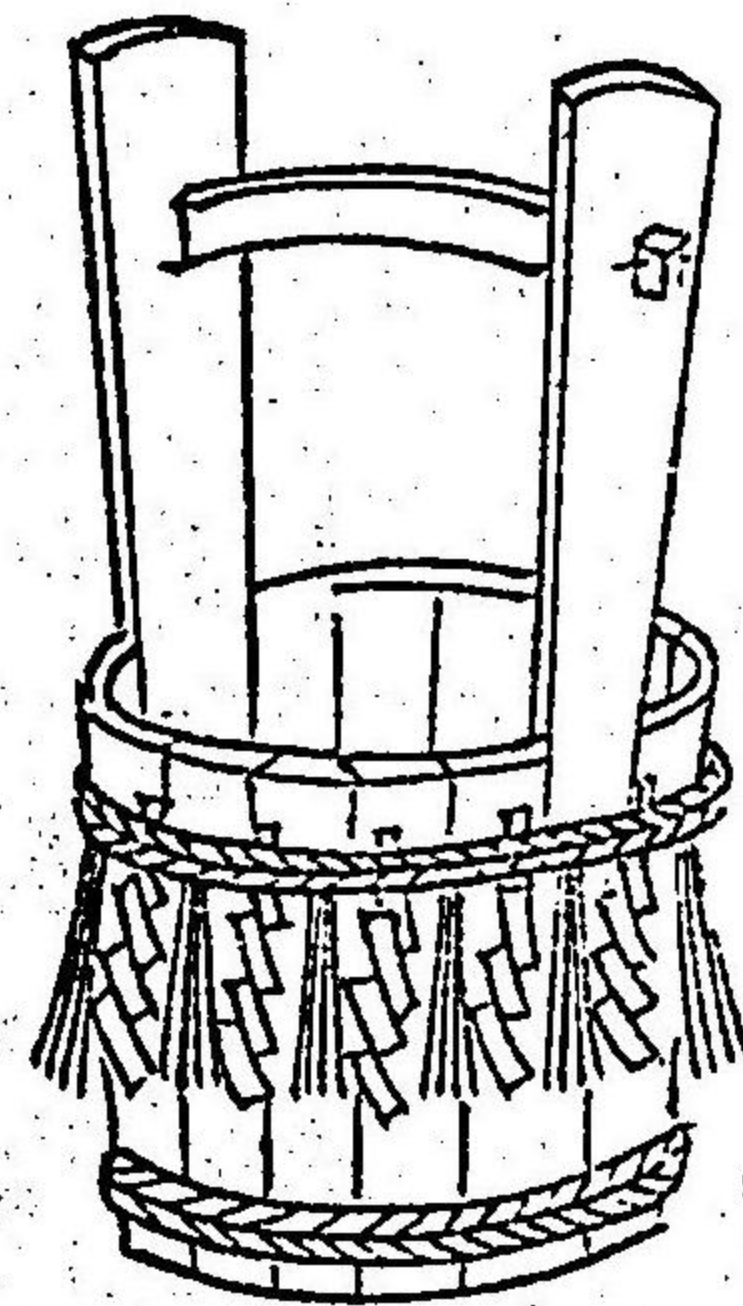


二〇三十一

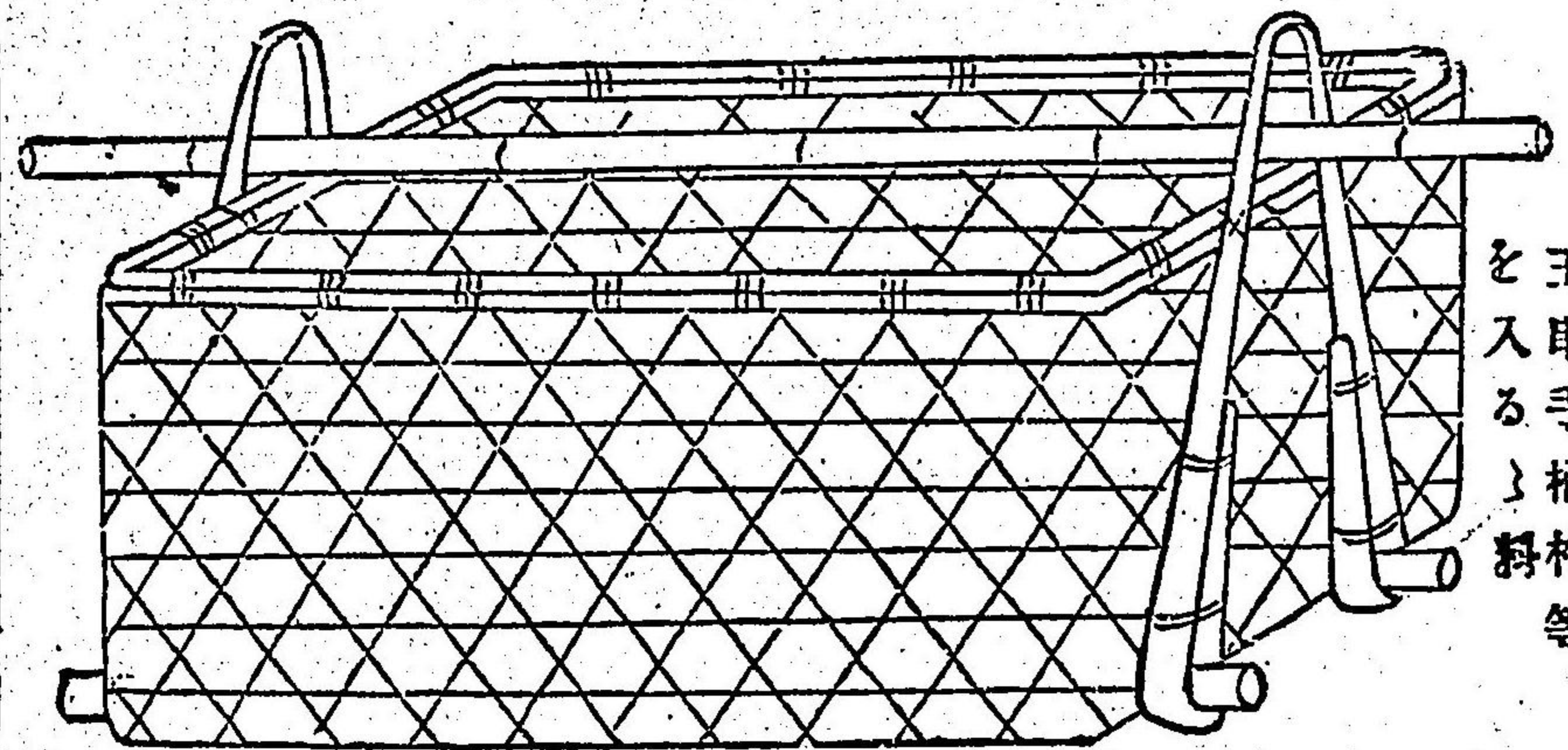
杓



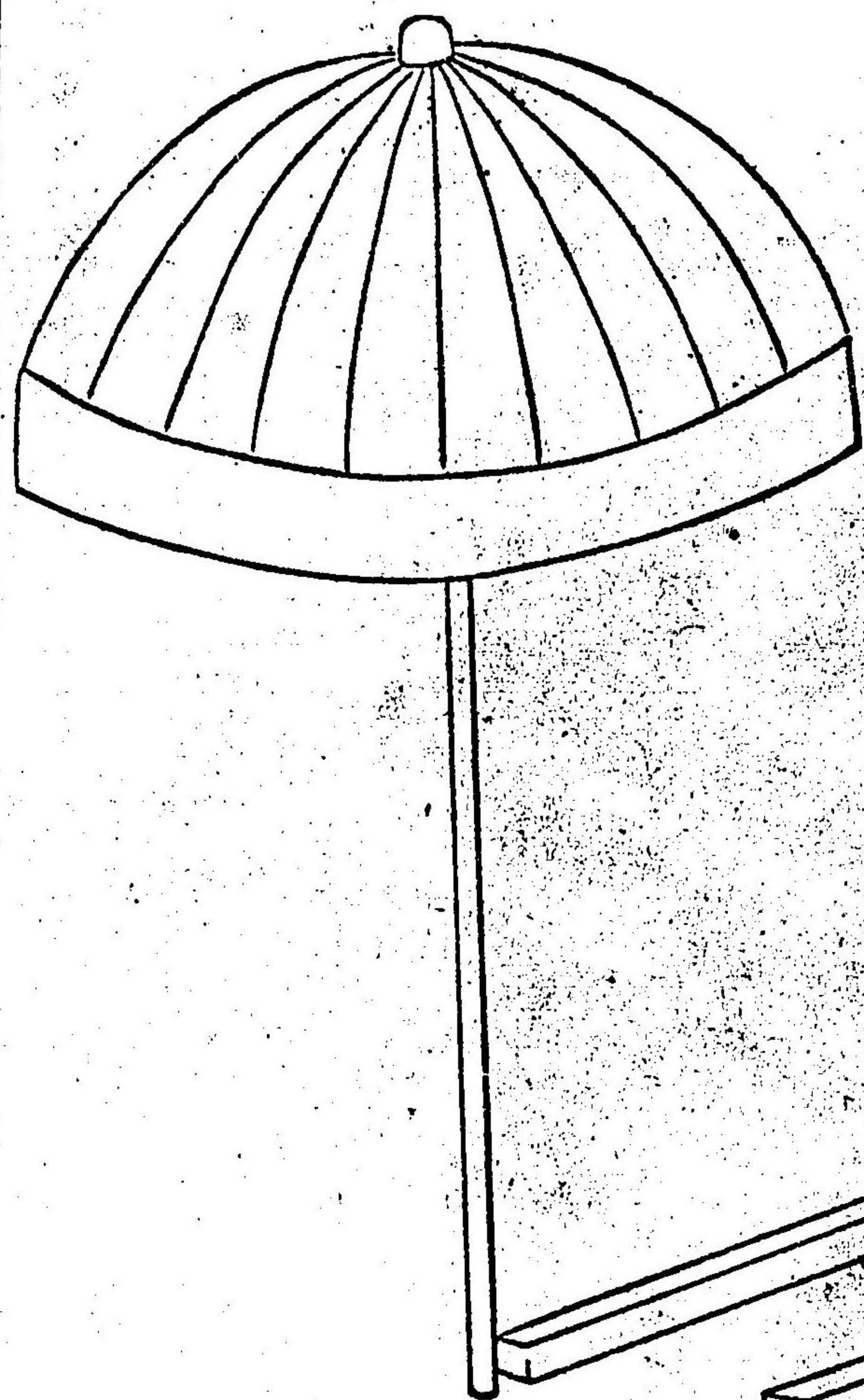
手桶



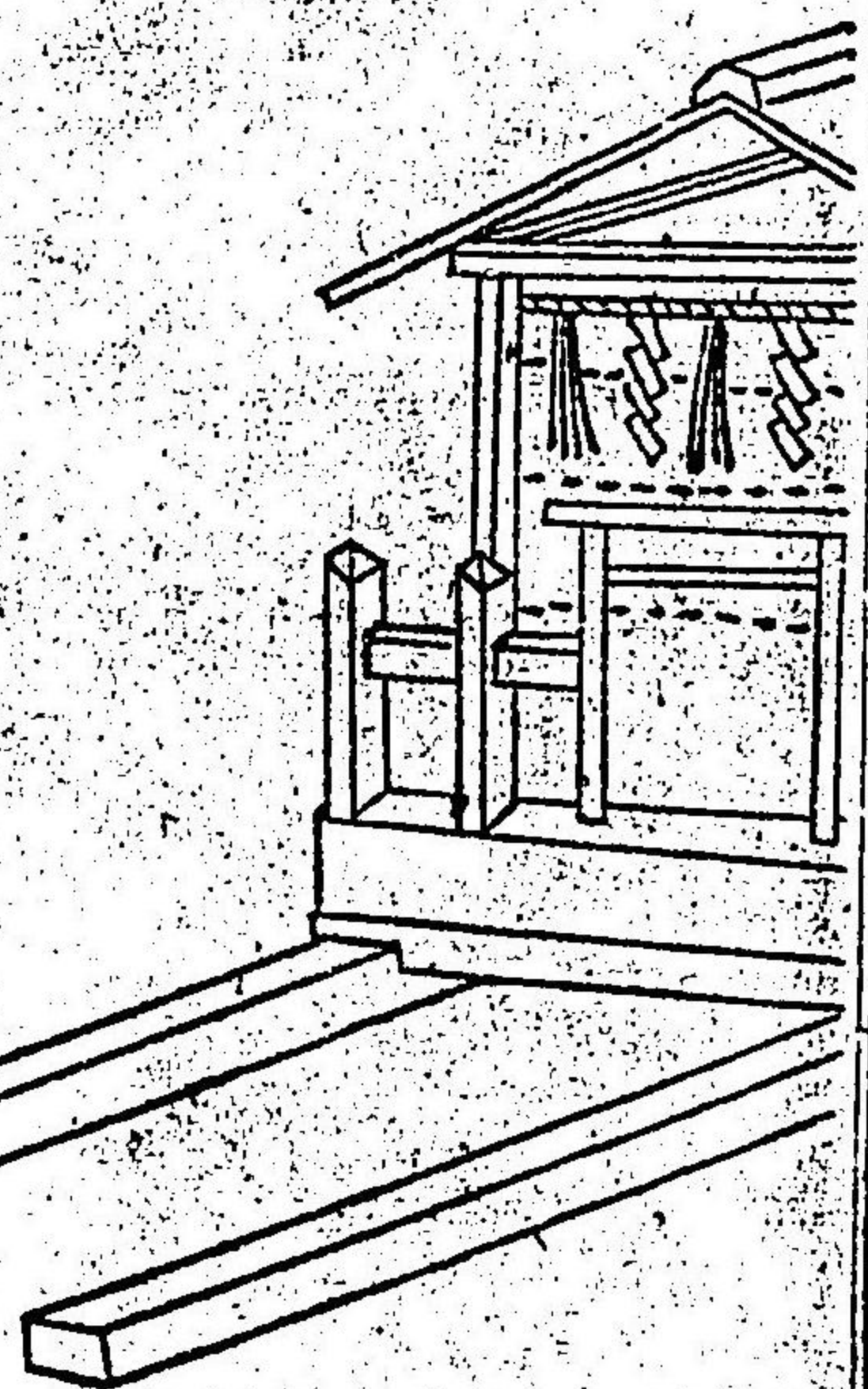
籠長持一荷



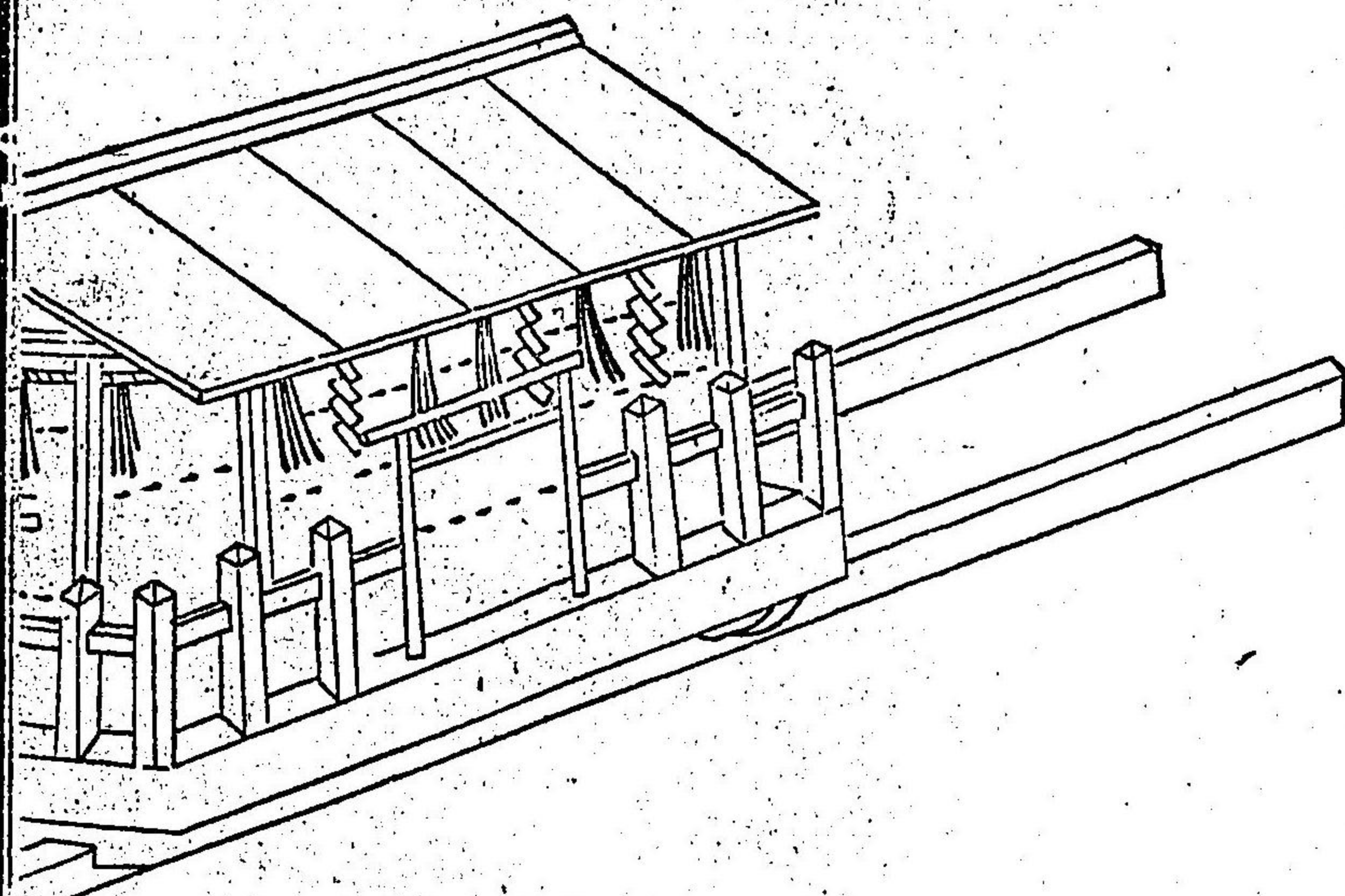
玉申手桶杓等
を入れる料



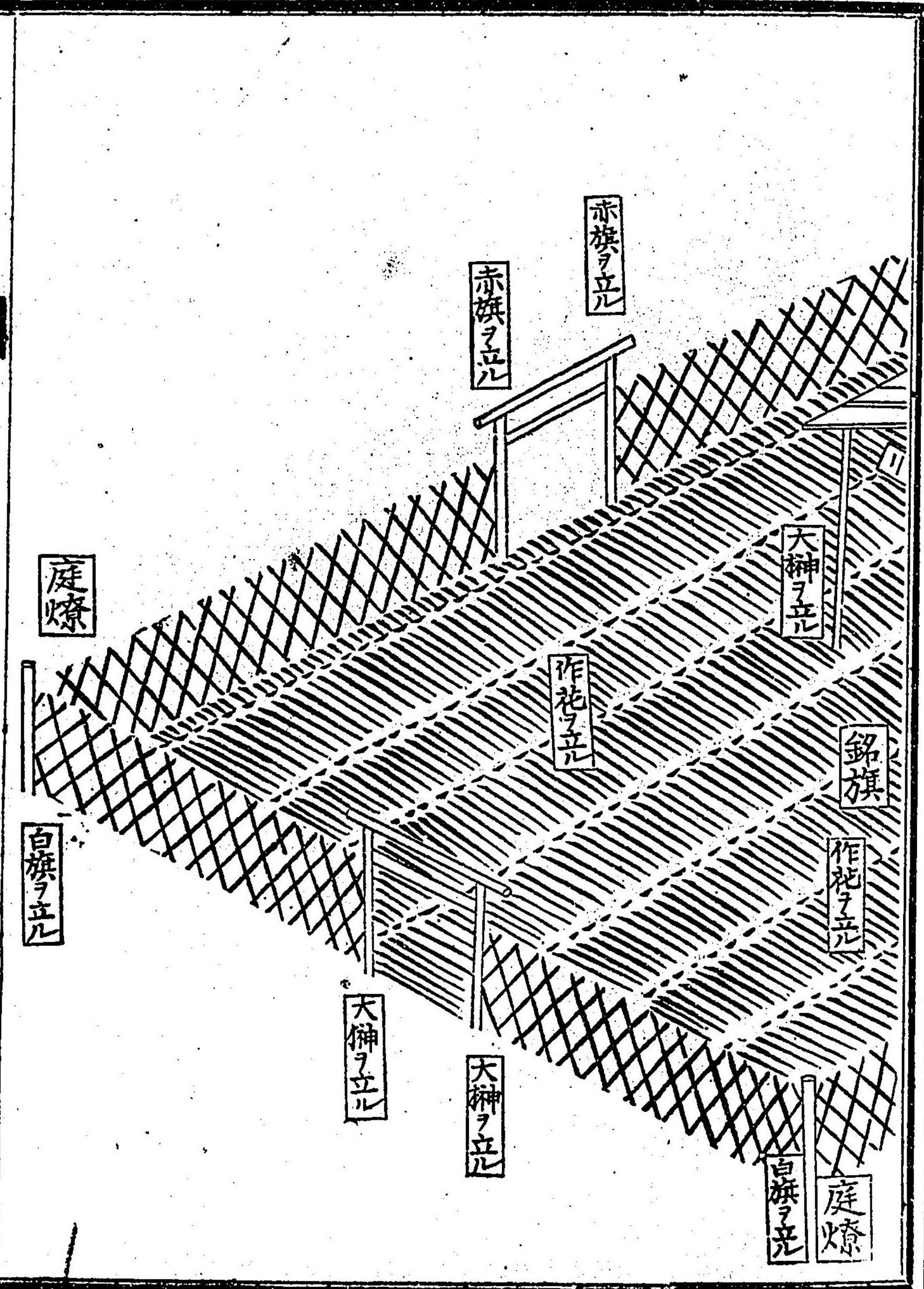
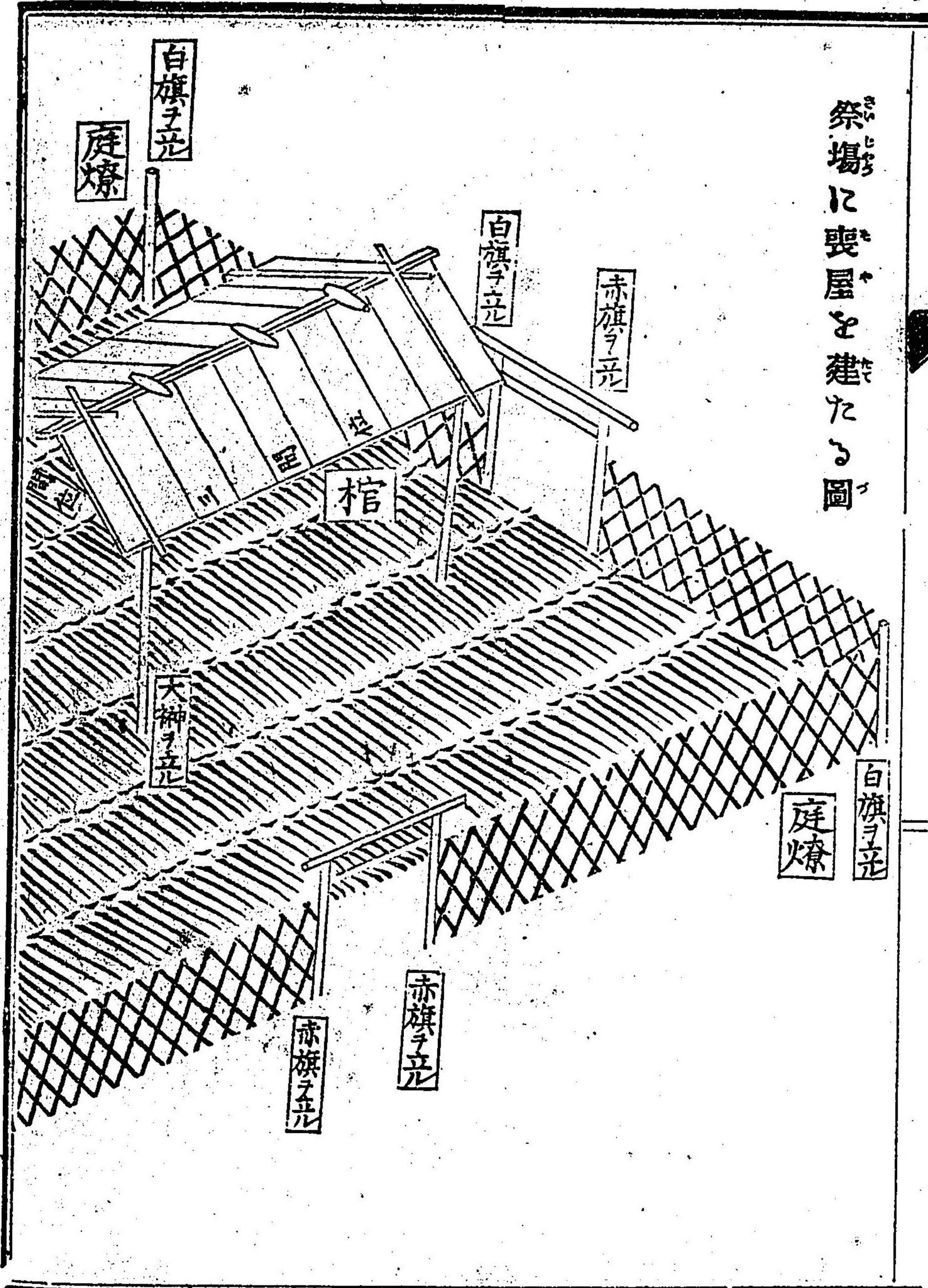
蓋



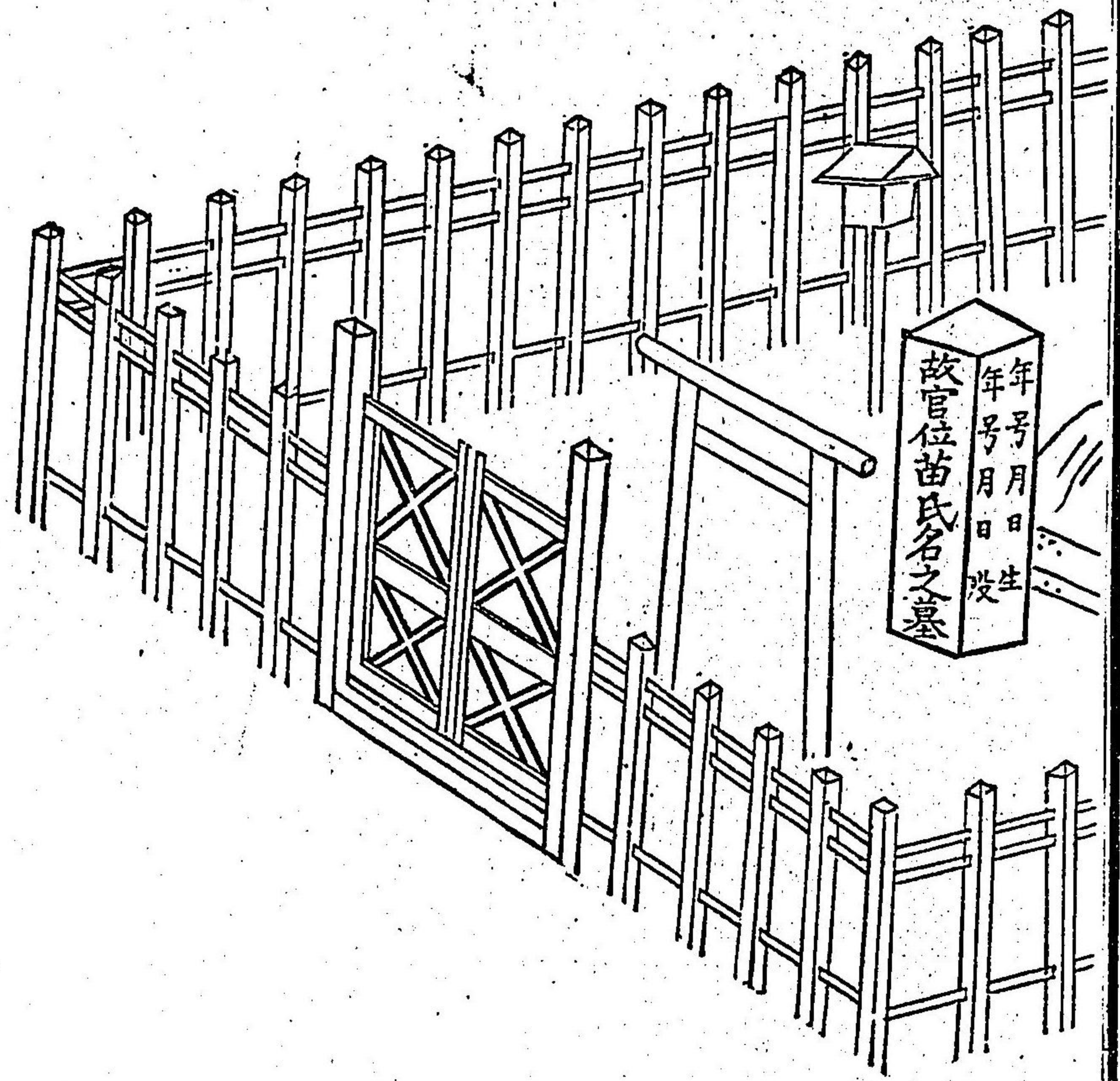
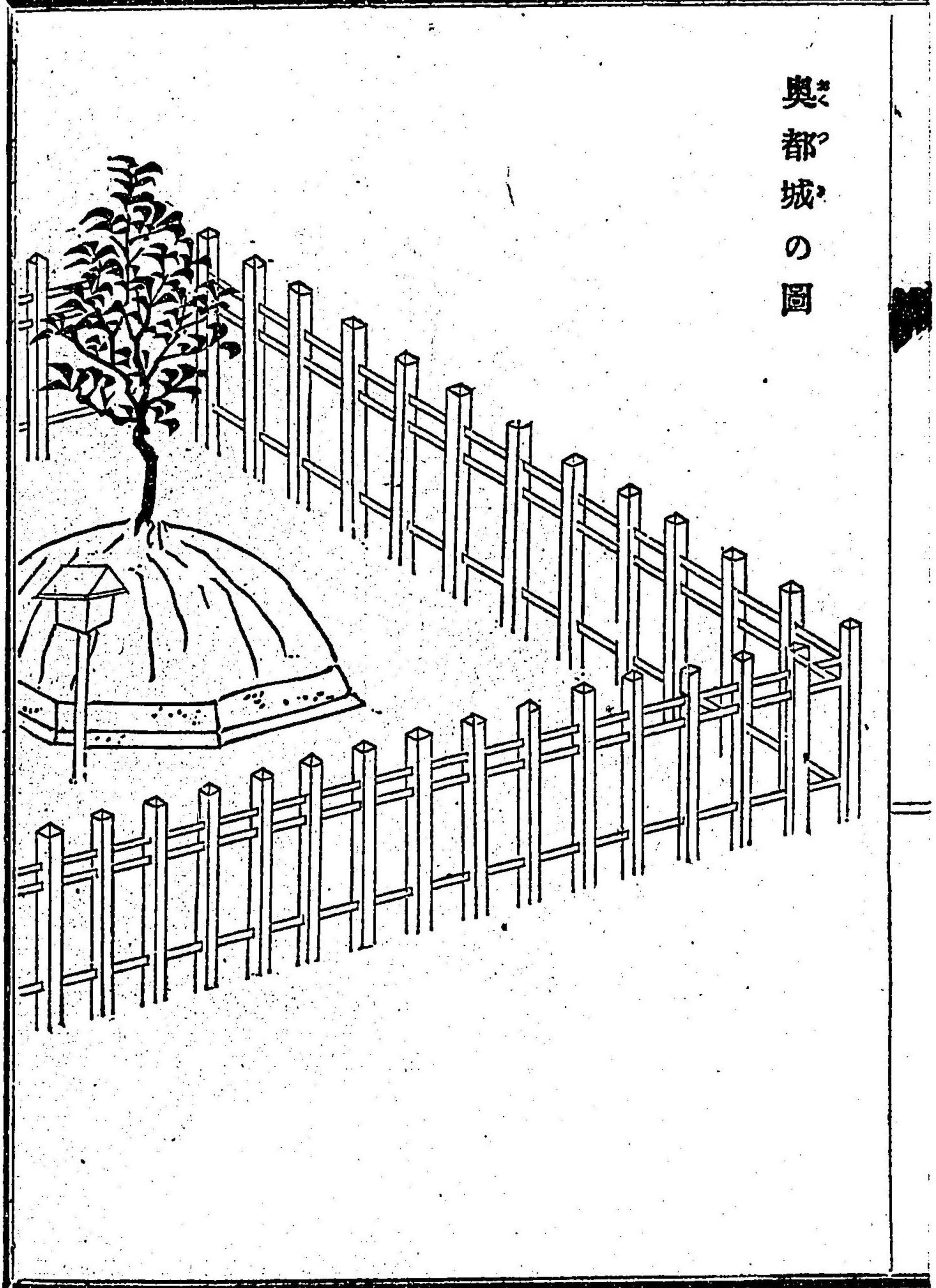
柁と大罫にの
 せ屋根を掛た
 る圖中等の式
 は是よ倣ひて
 作るべし



祭場に喪屋を建たる圖

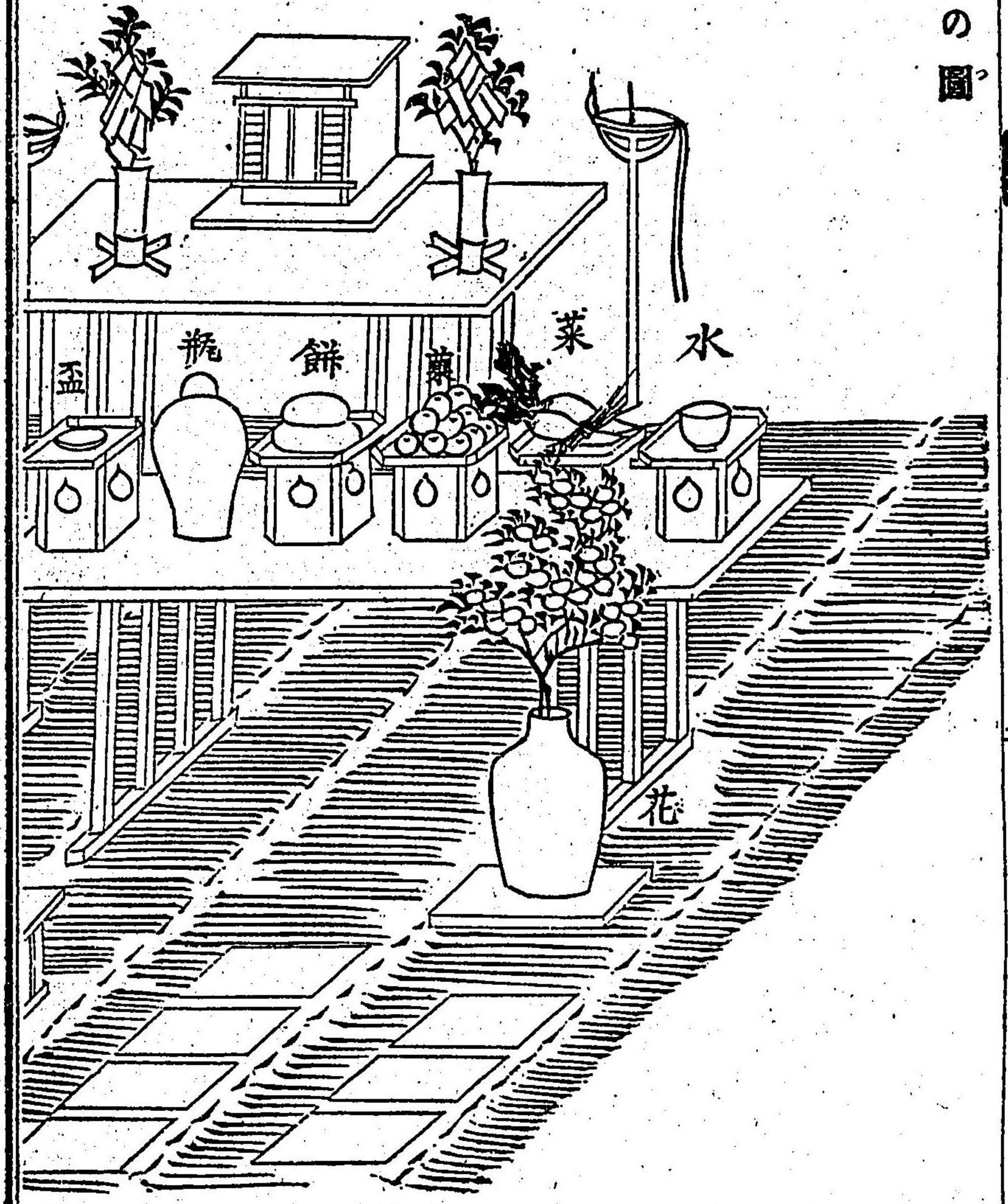


奥都城の圖



年号月日生
故官位苗氏名之墓

靈祭の圖



墓所よりの祭は靈祭の位置に同じ
 靈舎と概と換るのみなり



服忌令

總て服忌は父方は重く、母方は軽く、累喪と唱へて、父の服忌満ざる中、母の服忌かゝる時は母死去れ日より定まりの服忌かゝるなり、重き服忌の中に軽忌かゝる時は、重き服忌の中よてかすなり。○小兒七歳未満は服忌おし。○跡目相續の養子は實子に同じ。○養子母遺跡相續分地配當の養子は實父母と同じ服忌なり。

○五等親圖

一等親

○父

○母

○養父母

實乃父母に非ずして我を育てたる父母なり

○夫

○子

○養子

他人の子をもらひて育てあけたるをいふ

二等親

○祖父

父の父
母の父

○祖母

父の母
母の母

○嫡母

さきの
は

○繼母

まは

○伯父

○伯母

○兄弟

○姉妹

○夫の父母

○妻

○妾

○姪

○孫

○子の婦

三等親

○曾祖父母

○伯叔の婦

○夫の姪

○從父兄弟姊妹

○異父兄弟姊妹

○夫の伯叔父姑

○庶子の婦

○姪の婦

○繼父

四等親

○高祖父母

○從祖々父母

○從祖伯叔父姑

○夫の兄弟姊妹

○兄弟の妻

○再從兄弟姊妹

○外祖父母

○舅姨

○前父の子

○兄弟の孫

○從父兄弟の子

○外甥

○曾孫

○孫の婦

五等親

○妻の父母

○姑の子

○舅姨子

○玄孫

○外孫

○女婿

右の條々誤らざる様注意して喪家に示すべし

○服忌輕重定則

○ 妾	○ 子 <small>男</small>	○ 養子	○ 庶子	○ 孫	○ 庶孫	○ 玄孫	○ 姊妹	○ 異姊妹	○ 從姊妹
忌服 十三 月	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日

○ 嫡子 <small>長男</small>	○ 女	○ 養女	○ 嫡孫	○ 孫女	○ 曾孫	○ 兄弟	○ 異兄弟	○ 從兄弟	○ 兄弟
忌服 二十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 二十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日

○ 父母	○ 繼父母	○ 別離父母	○ 夫父母	○ 高父母	○ 祖父母	○ 母祖父母	○ 母伯叔母	○ 母伯叔母	○ 夫
忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日

○ 養父母	○ 嫡母	○ 生母	○ 主君	○ 曾父母	○ 祖父母	○ 離別祖父母	○ 父伯叔父	○ 父伯叔父	○ 妻
忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日	忌服 三十 日

- 師匠 服忌極ナシ
- 産穢 服忌ナシ
- 流産 服忌ナシ
- 血荒 服忌ナシ
- 改葬 服忌ナシ
- 死穢踏合 服忌ナシ
- 聞忌 遠方より知らせ來らば聞たる日より定まりの服忌を受くべし

追加

布告達心得の條々

葬祭に關係の御布告達等を擧て教導職の心得と爲す能く注意して朝旨を遵奉すべきあり

明治五年六月十三日太政官第百七十七号布告

神社參詣ノ輩自今死葬ニ預リ候者ト雖モ當日ノ可相憚事

但シ服忌ノ者ハ従前ノ通可相心事

同年六月二十八日同第百九十二号達

近來自葬取扱候者有之哉。相聞候處向後不相成條葬儀ハ神官僧侶之内へ可相頼候事

同年十一月 同第三百二十六号布告

皇靈御追祭御式年左ノ通被改候事

- 一年 三年 五年 十年 二十年 三十年
- 四十年 五十年 百年

以後百年エトニ祭之

同年十二月 同第四百七号布告

御歴代皇靈ヲ初其他御式年之儀從前一周者滿二年
即二十等之操方ヲ御追祭被爲在候處自今總テ滿年之
全數ヲ以テ被爲行候條此旨相達候事

同六年二月七日同第四十二号達

除服出仕 宣下候輩御祭典ノ節奉仕參拜不及憚候
事

但忌明ノ輩同様不及憚候事

同年二月二十日同第六十一号布告

自今混穢之制被廢候事

同年三月二十二日司法省ヨリ式部寮ニ問合

自今混穢之制被廢候旨過日第六十一号御布告有之
候處右混穢ト申者忌服中忌日數相過服日數中ノ者
亦ハ死穢ニ觸レ候者改葬主且其事ニ預リ候者或ハ
神事ニ預リ候輩産穢出血殺傷吊喪灸治及五辛獸肉
ヲ食類品々ノ觸穢ノ儀ト相心得可然儀ニ候哉承知
致度候條至急御指示有之度此段申達候也

同二十三日式部寮回答

混穢ノ儀ニ付御問合ノ趣致承知候混穢觸穢ハ同儀

ニ有之混穢ハ忌服トハ別儀ニ有之候尤死穢以下肉食穢ニ至リ是迄混穢觸穢ノ儀ハ惣テ被廢候事ニ有之候忌ハ從前ノ通服ハ神事ニモ不及憚儀候得ハ自ラ消滅ノ姿ニ有之候依而此段及御回答候也

同年二月二十日第六十三号華族ニ達

從來子細ノ所勞ト稱シ候忌服ハ自今相受ルニ不及候事

同七年一月二十九日太政官第十三号達

葬儀ハ神官僧侶ノ内可相頼旨壬申六月第百九十二号布告候處自今教導職ノ者ハ信仰ニ寄葬儀相頼

候儀不苦候條此旨布告候事

十年六月二十九日山梨縣ヨリ内務省へ伺

教導職試補以上ノ僧侶ノ依頼ニ依リ葬儀取扱候ハ勿論ナリト雖モ自己ノ父母亦ハ妻子等ノ葬儀ニ至リテハ本寺或ハ法類ノ内ニ依頼シ葬儀施行爲致可然哉又ハ喪注自ラ取扱可然哉相伺候也

同七月二十一日指令

書面伺ノ趣ハ教導職ト雖モ自葬不相成儀ト可爲心得事

右ノ伺指令ハ僧侶教導職試補以上ノ儀ナレモ神

道教導職モ之ニ准ヒ不注意ナキ様相心得ラルベ

同七年七月二十九日達第三十四号

葬儀ニ付テハ壬申第百九十二號本年第十三号公布ノ趣モ候處轉宗又ハ葬儀相改候節其寺院ノ離檀狀ヲ以爲願出候向モ有之候哉ニ相聞右ハ其儀ニ不及專ラ人民ノ望ニ任セ依頼爲致不苦儀ト可相心得此旨相達候事

同十一年三月四日太政官乙第二十号布告

舊敬部省九年一月第二号ヲ以相達候轉宗改式之節

承認書授受之儀向後廢止候條渾テ壬申第六百九十二号七年二月第十三号公布之通相心得自今轉宗改式之者ハ是迄葬祭受ノ者へ及通知置其旨管轄廳へ可爲届出此旨相達候事

但同宗派ニテ甲乙相轉候モ同様タルベシ

同十七年十月三十日内務省乾戸第四三九号訓令

從來戸籍簿ニハ宗旨ヲ記載セシ處以來記載ニ及ハズ此旨及訓示候也

○神祭ニ改式セント欲スル者ハ左ノ書式ノ手數ヲナスベシ

復祭通知書

拙者義是迄貴寺檀家ニ居申候處豫テ神道尊信罷在候ニ付今般神祭ニ復式致候條此段御通知申候也

府縣國區郡市町番邸地戸

年号月日

何之誰印

何々寺(院)御中

○ 復祭式願書

拙者義是迄何字何寺(院)檀家ニ有之候處豫テ本教尊信罷在候ニ付今般神祭ニ復式致度候條來ル何月何日午前第何時教師(教師ヲ指名ナルトハ何職)御差向復式御執行(名何ノ誰ト認ムヘシ)

被成下度尤自今葬儀ハ不申及春秋式年祭等總テ御依頼申上度候條各靈簿相添此段奉願候也

何府(縣)何國區郡市町番邸地戸

年号月日

何之誰印

黒住教

何々小教會所(説教場所)

御中

附 録

○埋葬取扱

埋葬取扱ひ方神祭は土葬に執行ふが本義なれども衆人の中には本縣より他縣に寄留せる者又旅行中死去せる者もあり然る時は其遺体を土葬にするは勿論なれども然あらせして遺族の都合を以て該縣に連歸らむとするには不便なるが故に火葬にする事もあるべければ其心得あるべし然る時は左の達に據るべきなり

太政官第二十五号

明治十七年十月四日

墓地及埋葬取締規則

第一條

墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條

墓地及埋葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クベキモノトス

第三條

死躰ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ズ

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラズ

第四條

區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得ルニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ズ

但改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クベシ

第五條

墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非ザレバ埋葬又ハ火葬ヲナサシム可ラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非ザレバ改葬ヲナサシム可ラス

第六條

葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フベシ

第七條

凡碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ク可シ其許可ヲ得ズシテ建設シ

タルモノハ取除クベシ

但墓地外ニ建設スルモノ又之レニ準ズ

右の條々教師喪家共心得たくべし

明治二十二年十二月十八日印刷落成
全年全月十八日出版御届

著作者

廣島縣士族

片岡正占

岡山縣備前國御野郡鹿田村
大字東古松五番邸

發行者

岡山縣士族

栗原釜一郎

岡山縣備前國御野郡今村大字
上中野二十一番邸

印刷者

岡山縣平民

小坂清作

全縣全國岡山市大字榮町八番邸
西尾活版所印刷部

